

令和元年度 事業・活動報告



社会福祉法人 大阪手をつなぐ育成会

目次

法人の事業・活動の概要	1 ページ
研究所 社会政策研究所	12
中央 中央支援センター	14
中 支援センター中	19
あまみ 支援センターあまみ	26
い～な 支援センターい～な	35
さくら 支援センターさくら	41
しらさぎ 支援センターしらさぎ	56
ねぎぼうず 支援センターねぎぼうず	65

法人の事業・活動の概要

法人の経営理念

みんなが みんなと みんなへ「手をつなぐ」

ロゴマーク つなぐちゃん



みんなが みんなと みんなへ「手をつなぐ」の理念を、

つなぐちゃんマークとともに毎月発行の情報紙「太陽の子」の冒頭に掲げました。

法人の事業・活動報告

令和元年度は、平成から令和へと時代の転換を迎えた年となりました。昭和 34 年に創立した大阪手をつなぐ育成会は、昭和の 30 年、平成の 30 年を歩み続け、令和の未来に向けて新たに歩み出すべく、創立 60 周年を迎えることとなりました。そんな中、9 月には第 60 回の大阪知的障がい者福祉大会を記念大会として、大阪国際会議場(グランキューブ大阪)にて開催することができました。また、60 周年を記念する 60 年誌「こころでつなぐ手をつなぐ2」を発行し、50 周年からの 10 年を振り返りました。

法人事務局は、10 年余り住所をおいた東成区玉津の地を離れ、大東市末広町の支援センターさくらへ引越すこととなりました。貸主からの請願により、老朽化したビルを解体し隣接地の新たな建屋への転居を求められたことによるものです。

そこで、合理性と経済性を鑑み、法人事務局は支援センターさくらへ転居することに決定しました。支援センター中と中央支援センターについては、隣接の建屋へ令和 2 年度早々に引越しをするべく準備を進めてまいりました。法人事務局の移転に伴い法人所在地の変更を行い、法人の所管庁は大阪市から大阪府へと変わりました。

育成会活動としては、10 月に消費税の増税が実施されるとともに行われた、軽減税率やキャッシュレス決済によるポイント還元の導入など、家族や本人の理解が深まるように、制度を知っていただくための研修会について部会を中心に実施しました。また、全国手をつなぐ育成会連合会に対しては、一般社団法人への移行を控えその事務等について支援を行いました。併せてその本人活動支援委員会を引き続き担当し、今年度は強制不妊手術救済法の本人向けわかりやすいパンフレットを作成配布などを行いました。

障害福祉サービス事業等においては、平成 30 年度に廃止した山口記念診療所と、支援センターつなぐのについて、原状復帰工事や会計処理など残された作業を完了しました。また、日中支援系事業では、効率的な経営を念頭におき、利用者の現況に合わせながら都度に定員変更などを行いました。相談支援事業における今後の方向性を検討し、分室制など新年度への体制整備を行いました。さらに年度末には、新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威をふるい、その情報を収集周知するとともに、感染予防に注力しました。

今や恒久的な課題となっている人材確保育成については、今年度から処遇改善加算を年度当初より取得し、さらに特定処遇改善加算を 10 月より取得しました。これによって、非正規職員

も含めた職員の処遇を改善しました。また、課題の多かった人事給与制度を改定するべく検討を行いました。働き方改革法施行への対応とともに、法人の営みが今後も持続していけることや、職員がやりがいを感じることができること、職員の業績がより反映されることなどを念頭に、次年度当初施行を目指してまとめることができました。

このような状況の変化に対応して、26年4月策定の大阪手をつなぐ育成会将来構想ふろむわん＝つな^ぐgood計画に基づく6つの重点分野に加え、令和元年度に新たに2つを追加し、以下のとおり8つの事項を定め、各種事業を実施しました。

- ・安心安全の地域生活支援
- ・働くことの質をささえる就労支援
- ・豊かな感動を生む芸術やスポーツへの支援
- ・周囲の人々に適切に理解される家族支援
- ・具体的で実効性のある意思決定支援
- ・人としての生活を保障する所得保障支援
- ・職員との対話を重視した事業運営
- ・収支の均衡を図った事業運営

法人の具体的な事業を大阪手をつなぐ育成会将来構想の5つの事業部門(生活支援、就労支援、人材支援、地域支援、法人・団体支援)に沿って報告します。

まず、生活支援部門では、グループホームに関して、これまでのアテンダントチームによる支援の点検を行うとともに、グループホーム担当者会議や所長会議で課題を整理して、引き続き戦略的な取り組みを進めました。訪問看護ステーションなど外部事業者と契約し、訪問看護師らによる医療連携支援に引き続き取り組みました。相談支援事業においてはさらに広がる新規ニーズに一定歯止めを行い、各センターにおける事業内容を見直しながら、法人全体の相談支援体制を検討整理しました。

次に就労支援部門では、本年も引き続き就労支援統括センターみいーんを中心に、法人内就労支援の質の標準化に向けて、T-TAPやSSTといった支援スキルの向上を目指し、法人内で横断的に取り組みました。就労継続支援B型事業においては、目標工賃達成指導員を新たに配置し工賃向上に取り組みました。二年目を迎える就労定着支援事業については、実施する三つのセンターにて利用契約者数を増やすことができ、事業利用者の就職後のアフターフォローに努めました。

人材支援部門では、本年も引き続き、各部会(はたらくらす部会、まもるひろめる部会、知る見る学ぶ部会、つな good シネマ)活動にて、様々な研修会などを定例にて実施しました。大阪府からの委託事業、知的障がい者文化芸術・スポーツ活動等推進事業については、広く府民に呼びかけ、多くの参加をいただくことができました。人材確保策については、法人内若手職員を中心にワーキングチームを編成し、本年も引き続き法人説明会の実施など精力的に取り組みました。また、求人ホームページ「ジョブギア」を立ち上げ運用を開始しました。支援センターい〜なで

は、移動支援従事者養成研修(知的障害者)を実施しました。

地域支援部門では、昨年度に引き続き「わかりやすい情報提供」に取り組みました。IPTVアクセスビリティコンソーシアムへも引き続き参画し、わかりやすい放送番組の制作に協力しました。また、LLブックセミナーを1月に開催しました。全国手をつなぐ育成会連合会の本人活動支援委員会を受け持ち、熊本における全国大会の本人大会実施に協力しました。さらには、わかりやすい版パンフレットの「旧優生保護法一時金支給法」を作成するとともに、「知る見るプログラム」を改定し、それぞれ配布しました。

法人団体支援部門では、引き続き大阪府における各種審議会に参画しました。とりわけ、第5次障がい者計画策定の意見具申や、障がい者差別解消条例改正への提言に参画しました。また、ODF(大阪障害フォーラム)、堺市相談支援ネット、エル・チャレンジといった関係団体へも引き続き参画しています。10月の消費税増税や、旧優生保護法一時金支給法施行に際して、支部をはじめとして広く相談をお受けし、情報提供など適切な支援を行いました。

今後も、大阪手をつなぐ育成会将来構想「ふろむわん＝つな^ぐgood計画」を軸に、知的障害者への支援に取り組み、誰もが住みやすい社会づくりに、引き続き会員や職員、関係者の力を結集していくことにしています。

法人の行動指針

○ノーマライゼーションの浸透

障害があってもなくてもあたり前に暮らすこと。知的な障害のある人やその家族にとってあたり前に暮らすとは、その当事者と同世代同性の多くの人々の暮らしをそのまま実現することです。家庭や地域、学校、職場などで適切に参加するための支援を具体化することです。

○エンパワメントの確立

知的な障害のある人やその家族の思いを大切に、その人らしさや機能の可能性を最大限に引き出すこと。残念ながら現状の社会は知的な障害を否定的に捉え、抑圧を加えたり体験の機会を奪ったりしてしまいます。このことがらに気づき、その人らしさや持ち合わせている力を発揮できる条件を整えることです。

○アドボカシーの推進

周囲の不当な侵害からその人の権利を擁護すること。組織や社会が有しているストレスや軋轢は、弱い立場の人に向かいそのはげ口となりやすい構造になっています。地域にしっかりとしたセーフティネット(安心網)を張り巡らし権利擁護を進めていくことが必要です。

○マネジメントの活用

ニーズと資源を適切に把握した経営・管理をすること。限られた財源や資源の中で、それらを有効に活用することが組織にも、制度にも、また社会や地球環境にも求められています。安定的な持続可能な仕組みを維持するために視野を広くして事業運営することです。

組織図

評議員会	——	育成会活動本部会議	——	支部組織・会員
		(支部連、はたらくらす部会、まもるひろめる部会、知る見る学ぶ部会、つな		
		good シネマ)		
理事会				
	——	将来構想推進委員会・情報管理委員会・苦情解決第三者委員ほか		
理事長				
常務理事	——	事務局長		
		事務局(管理部(総務室、人事室、企画室)、事業部(生活支援室、就労		
経営会議		支援室、相談支援室)、活動部(育成会活動室、地域貢献室)		
		—社会政策研究所		
所長会議		—中央支援センター(相談支援、保育所等訪問、障害児通所支援)		
		—支援センター中(生活介護・就労継続支援B型)		
		ホームズ中央(グループホーム)		
		ヘルパーステーションなか(居宅介護、移動支援)		
		—支援センターあまみ(相談支援)		
		あまみ・ピカ☆イチ(就労移行支援・就労継続支援B型)		
		—ホームズあまみ(グループホーム)		
		—支援センターい〜な(相談支援、居宅介護支援)		
		ゲーテン(生活介護)		
		ホームズみのお(グループホーム、短期入所)		
		ホームズい〜な(グループホーム)		
		ヘルパーステーションかやの(居宅介護・移動支援)		
		—支援センターさくら(相談支援、短期入所)		
		就労移行支援・自立訓練(生活訓練)事業部		
		スワンカフェ&ベーカリー大東店(就労継続支援A型)		
		—ホームズさくら(グループホーム)		
		ホームズなでしこ(グループホーム、短期入所)		
		—就労支援統括センターみいーん		
		(就業・生活支援センター、ジョブコーチ、エルチャレンジ)		
		—支援センターしらさぎ		
		就労移行支援・就労継続支援B型・自立訓練(生活訓練)事業部		
		—しらさぎ・ネスト(相談支援、地域活動支援センター)		
		—ホームズしらさぎ(グループホーム、短期入所)		
		居宅介護・移動支援事業部		
		—支援センターねぎぼうず(生活介護)		

組 織

8ブロック(北大阪、北河内、中河内、南河内、堺市、泉州、大阪市、本人の会)に計 47 支部を組織しています。

支部会員 1,910 名 個人会員 35 名 団体会員 1 団体

プレミアム会員 3 名 賛助会員 35 名 団体賛助会員 4 団体 (令和 2 年 3 月末現在)

会員の意識高揚と意思の疎通を図りながら、連帯を深めつつ組織を通じて効果的な活動を進めるとともに、賛助会員を積極的に募り、会活動の支援と活性化を図りました。また、会費による財政基盤の確保を図り、本会事業・活動の啓発活動を推進して、寄付金、助成金の確保に努めました。併せて、育成会活動活性化への課題整理を全国手をつなぐ育成会連合会とともに行いました。

助成金・寄付金・寄贈品

行政や助成団体等から、多額の助成金やご寄附・ご寄贈をいただきました。ありがとうございます。

主なものは、ジェイアイシーウエスト株式会社様から 300,000 円、株式会社小松製作所様から 150,000 円をはじめ、大阪府被服工業組合様より作業服、合計 23 件の個人や企業・団体様からの寄付金合計 3,729,405 円をいただきました。また、共同募金からは平成 30 年 10 月に実施された NHK 歳末たすけあい募金の配分金から 2,180,000 円をいただきました。ご寄付いただきました府民の皆さまに感謝いたします。重ねてお礼申し上げます。

活 動

理事会(定数 13 名) 4 月 11 日、5 月 28 日、6 月 13 日、7 月 11 日、9 月 12 日、10 月 10 日、11 月 14 日、12 月 12 日、1 月 9 日、3 月 12 日 3 月 27 日の計 11 回開催しました。

評議員会(定数 14 名)6 月 13 日、12 月 12 日、3 月 27 日の計 3 回開催しました。

評議員選任解任委員会 6 月 11 日に開催しました。

育成会活動本部会議 4 月 9 日、5 月 14 日、6 月 11 日、7 月 9 日、8 月 6 日、9 月 10 日、10 月 8 日、11 月 12 日、12 月 10 日、1 月 14 日、2 月 4 日、3 月 10 日の計 12 回開催しました。

大阪府市役員懇談会 12 月 17 日に、「育成会活動における情報提供」をテーマに、つな good ホールにて実施しました。

将来構想推進委員会 大阪手をつなぐ育成会将来構想「ふろむわん＝つな^ぐgood計画」の進捗管理を 3 月 27 日理事会で行いました。また、1 月 5 日社会政策研究所報告会の際に、職員による「ふろむわん研究会発表会」を開催しました。

経営会議 4 月 11 日、5 月 9 日、6 月 13 日、7 月 11 日、8 月 8 日、9 月 12 日、10 月 10 日、11 月 14 日、12 月 12 日、1 月 9 日、1 月 30 日、2 月 13 日、3 月 1 日、3 月 12 日の計 14 回開催しました。

情報管理委員会 8月8日に実施しました。苦情解決事案およびヒヤリハット等について報告を行いました。

苦情解決システム 法人全体の苦情解決システムの一環として、事業所ごとに苦情受付担当者・苦情解決責任者を配置するとともに、引き続き2名の第三者委員を配置し、適宜巡回相談を行いました。

職員研修体制 法人全体で人権研修を含む年間6回(採用異動時(4月1日)、4月16日、4月17日、12月3日、12月28日、1月5日)の職員研修を実施しました。

この他主任研修や所長課長研修、グループホーム世話人に対する研修(6月17日・25日)を2回実施しました。

第60回大阪知的障がい者福祉大会 9月16日(月祝)「手をつないで30年、そして60年、さらに90年へ」を大会主題に、大阪国際会議場「グランキューブ大阪」にて開催しました。

事業

生活支援部門

- 生活介護事業(ゲーテン)定員40名
- 生活介護事業(中) 定員16名
- 生活介護事業(ねぎぼうず) 定員20名
- 山口記念診療所(内科、整形外科、放射線科、皮膚科、精神科)
- 共同生活援助事業(H中央、Hあまみ、Hい～な、Hみのお、Hさくら、Hなでしこ、Hしらさぎ)
- グループホームの支援の質の向上
- 居宅介護事業(Hしらさぎ、中央、い～な)
- 移動支援事業(Hしらさぎ、中央、い～な)
- 居宅介護支援事業(い～な)
- 短期入所事業(Hみのお、さくら、Hなでしこ、Hしらさぎ、Hあまみ)
- 日中一時支援(地域生活支援事業/中、あまみ、い～な、さくら)
- 知的障がい者相談支援事業(松原市委託事業)(あまみ)
- 一般相談支援事業(中央、あまみ、い～な分室、さくら、しらさぎ)
- 特定相談支援事業(中央、あまみ、い～な分室、さくら、しらさぎ)
- 障害児相談支援事業(中央、あまみ、い～な分室、さくら、しらさぎ)
- 保育所等訪問支援事業(中央)
- 知的障がい者文化芸術・スポーツ活動等推進事業(地域生活支援事業/大阪府委託事業)
- 障がい児等療育支援事業(地域生活支援事業/堺市委託事業)(しらさぎ)
- 障害児早期療育事業(ポニー教室)(島本町委託事業)

就労支援部門

- 就労支援統括センターの運営(みいーん)
- 就労移行支援事業(さくら) 定員 38 名
- 就労移行支援事業(しらさぎ)定員 24 名
- 就労移行支援事業(あまみ・ピカ☆イチ)定員 12 名
- 自立訓練(生活訓練)事業(さくら)定員男女 12 名
- 自立訓練(生活訓練)事業(しらさぎ)定員男女 26 名
- 就労継続支援 A 型事業(さくら・スワンカフェ&ベーカリー大東店)定員 10 名
- 就労継続支援 A 型事業におけるベジハグバーガーの展開(さくら)
- 就労継続支援 B 型事業(中)定員 24 名
- 就労継続支援 B 型事業(しらさぎ)定員 10 名
- 就労継続支援 B 型事業(あまみ・ピカ☆イチ)定員 18 名
- 就労定着支援事業(さくら、あまみ、しらさぎ)
- 地域活動支援センター事業(しらさぎ・ネスト)
- 知的障害者雇用清掃事業(大阪府 IT ステーション、障害者社会参加促進センター等)(みいーん)
- エル・チャレンジに係る清掃事業(大阪府・大阪市委託事業)(みいーん)
- 訪問型職場適応援助者による支援事業(ジョブコーチ)(みいーん)
- 障害者就業・生活支援センター事業(国・大阪府委託事業)(みいーん)
- 地域就労支援(コーディネーター活動推進)事業(大東市委託事業)(みいーん)
- 職場定着支援事業(大東市委託事業)(みいーん)

人材支援部門

- 知的障がい者文化芸術・スポーツ活動等推進事業(大阪府委託事業)
- 本人活動支援センターの運営(全育連)
- キャリアパス研修
- エンパワメント講座
- 移動支援従事者養成研修(知的障害者)(い～な)
- 新成人と還暦を祝うメッセージカードの送付
- ふろむわん研究会
- 社内誌「つなぐちゃんベクトル」の毎月発行
- 支援専門職向けの政策ゼミナールの開催
- 人材確保策の強化(法人説明会の実施と効果的媒体の利用)
- わかりやすい版「旧優生保護法一時金支給法」の作成配布

地域支援部門

- 情報紙「太陽の子」の毎月発行 4,100 部 印刷
- 本人情報紙「青空新聞」の年間 2 回発行 4,100 部 印刷(太陽の子の差込みにて発行)
- 情報誌「知の知のヘッド」の随時発行
- ホームページの運営
- たまにブログ、あまみブログ、しらさぎブログの提供

- 合理的配慮ひろめ隊フェイスブックの提供
- つな good ボウリング大会
- つな good ボッチャ大会
- つな good シネマの実施
- ボランティアの募集
- 知的障害に配慮した書籍や冊子の発行・あっせん・販売
- 情報・交流誌「手をつなぐ」等の購読販売
- 社会政策研究所の運営
- 生活支援機器等の展示・あっせん
- 市町村審査会等への人材派遣
- 自立支援協議会等への人材派遣
- P&A 大阪への参画
- 本人交流の場としてサロンの開設・実施(毎月2回)
- スポーツや文化事業への招待
- 企業等の社会貢献活動のコーディネート
- 図書館利用サポーター養成研修への協力

法人・団体支援部門

- 大阪知的障がい者スポーツ協会への参画
- 特定非営利活動法人堺市相談支援ネットへの参画
- 大阪知的障害者雇用促進建物サービス管理事業協同組合への参画
- 一般社団法人エル・チャレンジ等への参画
- 講座や研修会への各種講師派遣
- 審議会や検討会などへの委員派遣

(大阪ふれあいキャンペーン、大阪府障がい者自立支援協議会、大阪府工賃向上委員会、大阪府地域福祉推進審議会、大阪府福祉のまちづくり審議会、第三者評価決定委員会、大阪府障がい者施策推進協議会、大阪府障がい者差別解消協議会、大阪府障がい者給付不服審査会、大阪府運営適正化委員会、全国手をつなぐ育成会連合会、大阪府社会福祉協議会、大阪府地域福祉推進財団、大阪府障害者福祉事業団、大阪府家内労働センターなど)

- 政策フォーラム
- 政策の企画提言
- 旅行社による知的障害者向け旅行の開発支援

主な行事

第6回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会

11月23日(土)～24日(日)熊本県 参加者:35名(内本人18名)

第58回近畿知的障害者福祉大会 11月17日(日)神戸市 参加者30名(内本人4名)

第23回近畿連リーダー養成研修会 6月3日(月)兵庫県 参加者:15名

第 6 回事業所協議会全国研修大会 1 月 25 日(土) 静岡県 参加者:1 名
第 38 回スポーツフェスタ 2019 大阪
 10 月 19 日(土)・20 日(日)・26 日(土)・27 日(日)ヤンマースタジアム長居他
 参加者 2,048 名
第 19 回全国障害者スポーツ大会 10 月 12 日(土)～14 日(月)茨城県 中止
権利擁護セミナー 11 月 25 日(水)青森県 参加者 1 名
全育連総会 6 月 25 日 (火)東京都
全国代表者事務局長会議 3 月 5 日(木)東京都 中止
育成会フォーラム 3 月 4 日(水)東京都 中止
令和元年新年懇親会 1 月 14 日 (火) KKRホテル大阪 参加者 82 名
手をつな good ボウリング大会 6 月 16 日(日)弁天町グランドボウル 参加者 135 名
手をつな good ポッチャ大会 11 月 9 日(日)ファインプラザ 参加者 29 名
第 12 回社会政策研究所研究発表会 1 月 5(日)大阪市内 参加者 28 名
全育連役員会 6 月 25 日、9 月 11 日、1 月 21.28 日、2 月 12 日、3 月 30 日
近畿連育成会役員会 4 月 8 日、6 月 10 日、8 月 5 日、9 月 9 日、11 月 11 日、2 月 3 日
大阪知的障がい者スポーツ協会総会 6 月 3 日、1 月 17 日
エル・チャレンジ総会 5 月 23 日(木)
大阪障害フォーラム(ODF)総会 6 月 22 日(土)
障害者団体大阪協議会総会 3 月 23 日(月) 中止
障害者週間大阪行事実行委員会 8 月 19 日(月)
大阪ふれあいキャンペーン実行委員会 8 月 20 日(火)
大阪府社会福祉大会 11 月 26 日(火)
大阪府障害者スポーツ大会実行委員会 1 月 17 日(金)

育成会活動

- 育成会活動本部会議 毎月第 2 火曜日 計 12 回開催
- 支部代表者連絡会 毎月第 3 火曜日 計 12 回開催
- 情報誌の発行等
 - 太陽の子 毎月 15 日発行 計 12 回発行
 - 青空新聞 年 2 回発行
 - 手をつなぐ 毎月発行(全育連)
- 部会活動
 - まもるひろめる部会(年 9 回:延参加者 226 名)
 - はたらくらす部会(年 11 回:延参加者 213 名)
 - 知る見る学ぶ部会(年 5 回:延参加者 100 名)
 - 支部における研修会等の開催(多数)
- 要望活動

大阪府への要望／市町村への要望支援

■大阪府行政への審議検討参画

大阪府障がい者自立支援協議会、大阪府工賃向上委員会、大阪府地域福祉推進審議会、大阪府福祉のまちづくり審議会、大阪府障がい者施策推進協議会、大阪府障がい者差別解消協議会、大阪府障がい者給付不服審査会、大阪府運営適正化委員会など

■大阪府地域生活支援事業の受託

大阪府レクレーション活動等支援事業の受託

■権利擁護相談

■会員交流研鑽行事

大阪大会：第 60 回大会（大阪国際会議場：参加者 本大会 260 名、本人大会 150 名）

交流運動会 中止

手をつな good ボウリング大会（弁天町グランドボウル：参加者 135 名）

手をつな good ボッチャ大会（ファインプラザ：参加者 29 名）

つな good シネマ（年 11 回：参加者延 83 名）

政策フォーラムの実施（10 月 8 日）

政策ゼミナールの実施（年 7 回）

■他の障害者団体との交流連携

ODF（大阪障害フォーラム）への参画

障害者団体大阪連合会への参画

■全国手をつなぐ育成会連合会への参加

国家要望／国等の審議会や検討会への参画／市町村育成会の活性化

■本人活動支援

全国大会本人大会への支援

本人活動支援センターの運営

わかりやすい版パンフレットの作成と配布

IPTV や LL ブックなどへの協力

■要望活動

大阪府への要望／市町村への要望支援／全育連を通じての国家要望

地域貢献活動

■権利擁護相談

■スポーツ・文化イベントの実施

手をつな good ボウリング／手をつな good ボッチャ／つな good シネマ／大阪知的障がい者福祉大会／スポーツフェスタ大阪／障害者週間協賛大阪行事／い～なまつり／さくらフェスタ／しらさぎまつり／スポーツや文化各種招待行事のあっせん

■本人活動支援（本人部会：大阪ともだちの会）

○ 大阪ともだちの会の支援 （年 13 回：延参加 308 名）

- 青空新聞の編集・企画と発行(年2回発行:4,100部)
- 大阪大会での本人大会の取り組み(係として参加:7名)
- レクリエーション活動
- 交流運動会 中止
- 勉強会

■ 研修会への講師派遣

■ 市町村審査会等への委員の派遣

政策提言活動

■ 社会政策研究所 別記

■ 大阪府行政への審議検討参画

大阪府障がい者施策推進協議会	坂本理事長
計画部会	小尾常務理事
意思疎通支援部会	小尾常務理事
アート支援企画部会	坂本理事長
大阪府障がい者差別解消協議会	坂本理事長
相談ワーキングセッション	坂本理事長
啓発ワーキングセッション	小尾常務理事
大阪府障がい者自立支援協議会	小尾常務理事
ケアマネジメント部会	左古室長
地域支援推進部会	小尾常務理事
地域生活拠点検討ワーキング	小路所長
工賃向上委員会	北口理事
虐待防止推進部会	東野理事
大阪府地域福祉推進審議会	小尾常務理事
大阪府福祉のまちづくり審議会	小尾常務理事
計画評価検討部会	小尾常務理事
大阪府障がい者給付不服審査会	小尾常務理事
大阪府運営適正化委員会	谷川事務局長
ふれあいキャンペーン実行委員会	小尾常務理事

社会政策研究所

知的障害を主軸に社会政策全般についての調査研究等を行い、その知見を広く社会に提供することで、だれもが住みよい社会づくりの一助に帰することを目的として、また、これとあわせて、組織が成立して 50 周年を迎えた当法人の記念事業として、社会的貢献の社会政策研究所を運営しています。

具体的には、次の 5 つの機能を順次整備しています。

○相談機能（コンサルテーション consultation）

相談室を設け、社会福祉士や相談支援専門員等を登録し、各種相談に対応する。

○交流機能（コミュニケーション communication）

会員や関係者の自由な意見表明、情報交換の場として以下のプログラムを提供する。

政策フォーラム、政策ゼミナール、大阪相談支援ネットワーク会議、研究発表会等

○協働機能（コラボレーション collaboration）

大阪育成会の会員や各組織、活動、事業などのフィールドを介して、様々な研究会や研究者と共同し、支援策や支援プログラム等を開発・提供する。

ケアマネジメント研究、性教育研究、社会関係障害研究、権利擁護研究など

○調整機能（コーディネーション coordination）

支部をはじめ各地で開催される研修会や学習会・講座等に、講師を紹介する

○提言機能（プロポーザル proposal）

行政機関等に対し各種施策提言や政策提案などを行う

なお、研究所運営にあつたては、客員研究員制度を効率的に活用することとします。

所在地 大阪市天王寺区生玉前町 5-33 大阪府障害者社会参加促進センター

職員 所長 1 名（常務理事兼務） 客員研究員 8 名（令和 2 年 3 月 31 日現在）

事業 令和元年度の事業は以下のとおりです。

（社福）大阪手をつなぐ育成会の社内誌「つなぐちゃんベクトル」の編集発行

毎月定期号を通算 12 号（124～135 号）を発行

（社福）大阪手をつなぐ育成会の情報誌「知の知の知の知」の編集発行

通算 4900 号～5446 号 年間計 547 号を発行

なお、ネットでの提供は行っていない。

政策フォーラムの開催

10 月 8 日 「トラウマと知的障害」本多隆司先生

政策ゼミナール 「手をつなぐ」を素材に情報交換 4~3月 12回開催

4月23日 平成を振り返る 5月28日 全国大会（京都大会）
6月25日 商品が生まれるまで 7月23日 住まいを支える
8月27日 進路選択 9月24日 高齢期を自分らしく
10月22日 母親に完璧を求めない(休) 11月26日 キャラバン隊
12月24日 アート(休) 1月28日 パラリンピックムーブメント(休)
2月25日 全国大会（熊本）（休） 3月24日 災害時の対応(休)

巡回講座「アサーション」 杉山萬千子講師

社会政策研究所研究発表会（第11回） 1月5日(日)

職員及び客員研究員による研究報告

（職員研究発表）

エピソード記述研究会（い～な） 東剛士 荒地佐知子 上善紀明

成慈愛 中村純子 穂木千賀子 松本寿美子 山野英樹

続 素敵に生きる研究会（ねぎぼうず） 北川研一 宗宮有海 福田栄

北朋子、山下昌代、

（客員研究員研究報告）

「いきいきと働く」ために ワーク・エンゲイジメントの視点

客員研究員 今川恵理子

親なきあとを考える ファイナンシャルプランと生命保険の活用で相続対策

客員研究員 西村和子 鹿野佐代子

ドイツのやさしいことば

客員研究員 菅谷泰行

LL マンガを使った旧優生保護法一時金支給法のわかりやすいパンフレット

客員研究員 藤澤和子

中央支援センター
(特定相談支援・一般相談支援・障害児相談支援)

【概要】

当センターは、平成 24 年度から大阪市東成区において指定特定(計画)相談支援、障害児相談支援、地域移行支援、地域定着支援を実施しています。平成 27 年度から特定事業所加算の指定を受けてきていますが、平成 31 年 2 月から相談支援専門員 1 名減により特定事業所加算Ⅲとなっています。

当センターの主な利用者は、知的障がいのある人ですが、精神障がいや発達障がい、高齢化による身体障害者手帳を取得する人もあり、他機関と連携しながら本人のニーズに添った支援を提供することを心がけています。令和元年度末までに大幅にケースの整理を行い、ケースの数が減りましたが、反面、障害児の相談については、支援が必要と思われるケースが多く、調整しながら引き受けるよう努めています。また、介護保険年齢に達する方々の支援も多く、本人やその家族への支援を巡って介護保険事業所などとの連携が求められました。高齢者支援の機関や医療関係者と構築できた関係を、業務に活かしながら支援しています。

また、東成区障がい者支援事業所連絡協議会(東成 ing)運営委員会にも参加しており、地域にある多数の障害福祉事業所や障害児支援事業所はもちろんのこと、様々な社会資源とつながりを持ち、連携を深めてきており、この関係性も相談支援に活かしています。東成区自立支援協議会の相談部会にも毎月欠かさず出席しました。

(指定特定相談支援・指定障害児相談支援)

【事業目的】

大阪市指定の特定相談支援事業・障害児相談支援事業の円滑な運営管理を図るとともに、利用者、障害児及び障害児の家族(以下「利用者等」という。)の意思及び人格を尊重して、常に当該利用者等の立場に立った適切な相談支援を提供する。

【運営方針】

- 1 事業は、利用者がその有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、保健、医療、福祉、就労支援、教育等の関係機関との緊密な連携を図りつつ、指定計画相談支援及び指定障害児相談支援を当該利用者の意向、適性、障害の特性その他の事情に応じ、適切かつ効果的に行うものとする。
- 2 事業の実施に当たっては、利用者の意思及び人格を尊重し、常に当該利用者の立場に立って、当該利用者に提供される福祉サービス等が特定の種類又は特定の福祉サービス事業等を行う者に不当に偏ることのないよう、公正中立に行うものとする。

- 3 事業の実施に当たっては、自らその提供する指定計画相談支援及び指定障害児相談支援の評価を行い、常にその改善を図るものとする。
- 4 事業の実施に当たっては、前3項の他、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（以下、「障害者総合支援法」と言う。）に基づく指定計画相談支援の事業の人員及び運営に関する基準」及び「児童福祉法に基づく指定障害児相談支援の事業の人員及び運営に関する基準」に定める内容を遵守する。

【所在地】 大阪府大阪市東成区玉津2丁目11-28
電話06-6975-3370 FAX06-6975-3350

【職員配置】 管理者(兼務) 1名 相談支援専門員(専従) 2名

【実施地域】 通常の事業の実施地域は大阪府内全域とする。

【営業日及び時間等】

事務所の営業日・時間 月曜日から金曜日の午前9時から午後5時45分まで
ただし、国民の祝日および12月29日～1月3日を除く。

【対象者】 大阪府域の知的障害児・者、身体障害児・者、精神障害者、難病等対象者

【サービスの提供方法及び内容】

- (1) 利用者及びその家族の生活に対する意向
- (2) 総合的な援助の方針
- (3) 生活全般の解決すべき課題
- (4) 提供される福祉サービス等の目標及びその達成時期
- (5) 福祉サービス等の種類、内容、量
- (6) 福祉サービス等を提供する上での留意事項
- (7) モニタリング期間に係る提案

(一般相談支援事業)

【事業目的】

障害者総合支援法に基づく指定地域移行支援事業及び指定地域定着支援事業（以下「指定一般相談支援事業」という。）の円滑な運営管理を図るとともに、利用者の立場に立った適切な指定地域移行支援及び指定地域定着支援（以下「指定地域相談支援」という。）の提供を確保することを目的とする。

【運営方針】

- 1 指定地域移行支援の実施に当たっては、利用者が地域において自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、当該利用者につき、住居の確保その他の地域における生活に移行するための活動に関する相談その他の必要な支援を適切かつ効率的に提供されるよ

う配慮して行うものとする。

- 2 指定地域定着支援の実施に当たっては、利用者が地域において自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、当該利用者との常時の連絡体制を確保し、当該利用者に対し、障害の特性に起因して生じた緊急の事態等に相談その他の必要な支援を適切かつ効果的に行うものとする。
- 3 指定一般相談支援事業の運営に当たっては、市町村、障害福祉サービス事業者等の関連機関との連携を図り、当該利用者の意向、適性、障害の特性その他の事情に応じ、適切かつ効果的に行うものとする。
- 4 指定一般相談支援事業の実施に当たっては、利用者の意思及び人格を尊重し、常に当該利用者の立場に立って行うものとする。
- 5 前4項のほか、障害者総合支援法及び障害者総合支援法に基づく指定地域相談支援の事業の人員及び運営に関する基準に定める内容のほか関係法令等を遵守し、事業を実施するものとする。

【所在地】 大阪府大阪市東成区玉津2丁目11-28
電話06-6975-3370 FAX06-6975-3350

【職員配置】 管理者(兼務)1名 相談支援専門員(専従)2名
指定地域移行支援・指定定着支援に従事する者2名 事務職員1名

【実施地域】 通常の事業の実施地域は大阪府内全域とする。

【営業日及び時間等】

事務所の営業日・時間 月曜日から金曜日の午前9時から午後5時45分まで

ただし、国民の祝日および12月29日～1月3日を除く。

上記の営業日、営業時間のほか、電話等により24時間常時連絡が可能な体制とする。

【対象者】 知的障害者、身体障害者、精神障害者、難病等対象者

【サービスの提供方法及び内容】

- (1)日常生活全般に関する相談
- (2)地域の障害福祉サービス事業者等の情報提供
- (3)指定地域移行支援に関する内容
 - ①地域移行支援計画の作成及び評価
 - ②地域に移行するための活動に関する面接又は同行による支援
 - ③障害福祉サービスの体験的な利用
 - ④体験的な宿泊
- (4)指定利用者の心身の状況及び障害の特性等に応じた常時の連絡体制の確保
 - ①緊急時における一時的な滞在等による支援
 - ②訪問等による利用者の状況の把握
- (5)前各号に掲げる便宜に附帯する便宜

(1)から(4)に附帯するその他必要な相談支援、助言等。

令和元年度相談支援事業実績

＜特定相談支援事業・障害児相談支援事業・一般相談支援事業（地域移行・地域定着）＞

種類／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
計画相談総契約者数	98	98	96	95	93	93	93	92	92	87	87	87
（内障がい児数）	33	33	31	30	30	30	30	30	30	30	30	30
計画案作成件数（者）	6	3	10	3	2	8	9	2	4	2	3	9
計画作成数（者）	7	7	2	10	5	4	7	13	4	1	5	3
モニタリング数（者）	16	14	20	18	11	18	13	10	23	15	15	14
計画案作成件数（児）	4	0	1	4	2	3	3	5	1	2	3	8
計画作成数（児）	8	4	3	0	6	3	2	3	5	3	2	4
モニタリング数（児）	5	7	3	8	6	10	2	2	4	9	6	4
地域定着支援 態勢確保（契約数）	14	14	14	14	14	15	15	14	13	13	12	12
緊急支援（回）	12	7	9	11	18	14	11	11	14	6	6	9
地域移行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（早期療育・保育所等訪問支援事業）

【概要】

保育所等訪問支援事業においては、障害児が集団生活を営む保育所や学校を訪問し、障害児以外の児童との集団生活への適応のための専門的な助言をおこないました。

支援の具体例の参考となるような文献を提示して、説明をおこない、支援グッズなどの紹介も含め、学校の先生や保育園の保育士などに助言、提案をおこなっています。

早期療育については、島本町より委託を受け、1期20回のプログラムを前期・後期の20回5組の親子に実施する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で3月の4回が中止になりました。

【事業目的】

早期療育、及び保育所等訪問支援事業の円滑な運営管理を図るとともに、障害児及び障害児の保護者（以下「利用者等」という。）の意思及び人格を尊重して、常に当該利用者等の立場に立った適切な支援を提供する。

【運営方針】

- 1 事業所の従業者は、障害児が障害児以外の児童との集団生活に適應することがで

きるよう、当該障害児の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて、適切かつ効果的な支援を行うものとする。

2 事業の実施に当たっては、都道府県、関係市町、障害福祉サービスを行う者、児童福祉施設その他の保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めるものとする。

3 利用者等の意思及び人格を尊重し、常に利用者等の立場に立って、利用者等に提供される福祉サービス等が特定の種類又は特定の障害福祉サービス事業を行う者に不当に偏ることのないよう、公正中立に行うものとする。

【所在地】 大阪府大阪市東成区玉津2丁目11-28

電話06-6975-3370 FAX06-6975-3350

早期療育については、島本町、及び河南町・太子町・千早赤阪村（2町1村合同）において実施

【職員配置】 管理者 1名 児童発達支援管理責任者 1人

訪問支援員1名 セラピスト5名（ポニースタッフ）

【営業日及び時間等】

事務所の営業日・時間 月曜日から金曜日の午前9時から午後5時45分まで
ただし、国民の祝日および12月27日から1月4日を除く。

サービス提供時間は、午前9時から午後4時までとする。

【実施地域】

早期療育については、島本町との協議により実施する。

保育所等訪問支援事業は、大阪府内全域とする。

【サービスの提供方法及び内容】

早期療育においては、障害児本人に、身の自立能力の向上や社会適応力の促進を図る基本的な生活訓練を行いながら集団生活適応の為の訓練などを行い、保護者にはグループカウンセリングで家庭での療育の知識や技術についての助言や指導を、おこなった。

令和元年度早期療育・保育所等訪問支援事業実績

〈ポニーの学校〉

事業名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ポニー(実人員)	0	5	5	5	5	5	0	5	5	5	5	0

〈保育所等訪問支援事業〉

事業名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
保育所等訪問支援	0	0	0	3	2	1	2	0	0	2	1	0

支援センター中

I 事業概要

今年度は来年度事業所移転を見据え、また利用者が少しでも働きやすく、活動しやすい環境整備を行う為、定員変更を行なった。（就労継続支援B型は定員24名、生活介護は定員16名と合わせて40名定員）日中一時支援事業については、利用者からニーズがあった為、大阪市以外に八尾市とも契約し事業を行なった。

各事業とも利用者・家族のニーズに合ったサービスが提供できるように、生活・仕事・余暇のバランスを十分考慮し、各事業で目的や役割の違いを明確にしたことで、事業別に作業支援や余暇活動、行事や勉強会等を実施した。

各職員については個別の意見を聞き、支援スキルをあげられるように希望する各種研修に引き続き参加した。

II 事業内容

支援センター中	就労継続支援(B型)事業 定員 24名 生活介護事業 定員 16名 日中一時支援事業 (大阪市・八尾市)
ホームズ中央	共同生活援助事業 定員 22名
ヘルパーステーションなか	居宅介護事業、移動支援事業

III 課題への取り組み (令和元年度重点項目の取り組み)

就労継続支援B型

利用者の意思及び人格を尊重し、就労に必要な知識、能力が向上するための個別支援、就労の機会や生産活動（委託加工、自主製品作成）を引き続き提供した。委託加工については利用者ができる作業を前提に少しでも単価の高い作業を取り入れた。また、さをり工房「なかなか」については、利用者の個性重視のみならずお客様の意見を取り入れた色合いの製品作成もはじめ、また、さらに技術習得・支援にも力を入れ、新たな商品の開発、収支を意識した値段設定を行い、目標にしていた月額平均工賃1万円以上について達成した。

地域団体が主催する催し（医師会・東成食生活改善推進協議会）に積極的に参加し、地域の交流を深める取り組みを行なった。

生活介護

清掃活動や生産活動（委託加工）のほか、季節にあわせた行事を企画し行なった。行事については、各機関から招待を受けた催しに対し生活介護の活動として引き続き参加した。また、音楽療法、リズム体操、芸術活動、エイサー（沖縄諸島全域に伝わる盆踊

り)については昨年度に引き続き講師を招いて取り組む機会を提供した。各利用者が役割を持ち、社会参加する機会を増やし、また、グループでの行動を重点に取り組んだ。

IV 年間行事、日課など

1. 日課

午 前		午 後	
	登 所	1:00	作業・活動再開
9:30	朝礼・ラジオ体操	2:00	途中休憩(コーヒータイム)
	終了後 作業、活動開始	3:20	作業、活動終了 清掃・終礼
12:00	昼食・休憩	4:00	降所

2. 年間行事

避難訓練	令和1年7月10日・令和2年2月13日	就B・生活
健康診断	令和1年8月から10月	就B・生活
日帰り旅行	令和1年10月4日 青蓮寺湖ぶどう狩り	就B
	令和1年11月8日 USJ	生活介護
学習会	令和1年10月31日 健康展	就B
	令和2年3月23日 オーラルケア中止	生活介護
招待行事	平成31年4月8日 造幣局特別観桜会	生活介護
	令和1年12月9日 日産労連	就B・生活
クリスマス会	令和1年12月21日	就B・生活
新年会	令和2年1月6日 初詣・年賀状作り	就B・生活
ごくろうさん会	令和2年3月13日 中止	就B・生活
合同行事 (ねぎぼうず)	令和1年10月11日 芋の収穫体験	生活
スポーツフェスタ	令和1年10月19日	生活・就B
大阪大会	令和1年9月16日	生活・就B
選択弁当	毎月1回月末	生活・就B
さをり販売	不定期	就B
土曜開所	毎月1回(第3土曜)	生活・就B

V 事業概況

1. 利用者の状況

令和2年3月31日現在

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
在籍者	43	43	43	43	43	43	43	42	42	42	42	43	
当月入所者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
当月退所者	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
開所日数	22	22	21	23	19	20	23	22	22	21	19	22	
就労継続B型	男性	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	
	女性	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	6	
	計	20	20	20	20	20	20	19	19	19	19	20	
	延べ利用者	412	408	387	429	353	373	426	378	391	345	321	349
	利用率	74	74	92	93	77	77	77	71	74	68	70	66
生活介護	男性	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	
	女性	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	
	計	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	
	延べ利用者	404	397	378	425	344	360	407	388	391	364	323	379
	利用率	122	120	90	92	113	112	110	110	111	108	106	107
日中一時	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
	女性	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	

※利用率（％）：当月の延べ人数÷定員*開所日数

2. その他利用者情報

(障害支援区分と援護市の状況)

令和2年3月31日現在(人)

事業名	就労継続B型 20名	生活介護 23名	
障害支援区分	区分6	0	6
	区分5	4	5
	区分4	8	9
	区分3	5	3
	区分2	2	0
	区分1	0	0
	区分なし	1	0
援護市別利用者数	大阪市 14名 八尾市 5名	大阪市 18名 八尾市 5名	

	東大阪市 1 名	
--	----------	--

3. 年齢の状況 (人)

事業名		就労継続B型	生活介護
19歳以下	男		1
	女		0
20歳～29歳	男	3	4
	女		0
30歳～39歳	男	3	3
	女		1
40歳～49歳	男	3	5
	女	1	2
50歳～59歳	男	3	1
	女	3	3
60歳～69歳	男	1	1
	女	1	0
70歳以上	男	1	1
	女	1	1
平均	男	42.8歳	39.6歳
	女	56.2歳	51.1歳

4. 工賃支給実績（就労継続支援B型）

	工賃支払い対象者数		支払工賃総額	
4月	20	人	125,550	円
5月	20	人	137,400	円
6月	20	人	133,800	円
7月	20	人	127,950	円
8月	20	人	138,850	円
9月	20	人	117,700	円

10月	20	人	248,450	円
11月	19	人	130,200	円
12月	19	人	122,350	円
1月	19	人	125,750	円
2月	19	人	105,900	円
3月	19	人	848,500	円
合計	235	人	2,362,400	円
平均工賃月額①				
<small>(工賃総額÷工賃支払対象者の総数)</small>				
10,052.7		円		

ホームズ中央

I 事業概要

ホームズ中央は、今年度も地域で自分らしい生活を送れることを希望している19名の利用者の支援、援助を行なった。また、利用者・家族の生活ステージを把握して地域生活の展開とホーム設置の検討を行なった。

II 課題への取り組み（令和元年度重点項目の取り組み）

共同生活援助

利用者の身体及び精神の状況に応じ支援計画を基本にすえた主体的で豊かな生活を送ることができるように、入浴、排せつまたは食事等の介護、相談その他の日常生活上の援助を行った。また、訪問看護ステーションや居宅介護事業所との連携を強化し、利用者の健康面や通院等の支援についても充実を図った。

支援員およびバックアップ職員が密接に連携協力することはもとより、市町村、他の指定障害福祉サービス事業者その他福祉サービス又は保健医療サービスを提供する者との密接な連携に努めた。また、地域との結び付きを重視し、グループホーム毎で地域

のイベントに参加した。各ホームの利用者の状況・課題やサービスの質の向上を目的にグループホーム毎に世話人（生活支援員）会議を月1で行い、課題解決やグループホームの生活の質の向上に取り組んだ。ホームズ中央利用者の交流を目的に新年会を開催し、グループホーム利用者の親睦が深まった。

利用者ならびにその家族の高齢化が深刻であり、随時、介護保険制度の申請ならびに成年後見制度利用を進め、申請等の援助を行なった。

1. 年齢の状況 (人)

年齢	性別	共同生活援助
19歳以下	男	0
	女	0
20歳～29歳	男	2
	女	1
30歳～39歳	男	2
	女	3
40歳～49歳	男	8
	女	0
50歳～59歳	男	1
	女	2
60歳～69歳	男	1
	女	1
70歳以上	男	1
	女	0
平均	男	45.0歳
	女	43.7歳

2. その他利用者情報

(障害支援区分と援護市の状況)

(人)

	事業名	共同生活援助
障害支援区分	区分6	0
	区分5	1
	区分4	8
	区分3	7
	区分2	2
	区分1	0
	平均区分	3.5

援護市別利用者数	大阪市 7名 八尾市 9名 門真市 1名 東大阪市 1名 高槻市 1名
----------	---

ヘルパーステーションなか

I 事業概要

ヘルパーステーションなかは、一人では外出が難しい障害者が、社会生活の上必要不可欠な外出や余暇活動、社会参加のための外出をする際に、ヘルパーを派遣し外出時に必要となる移動の介助及び交通機関の利用支援、助言をおこなった。また、一人で医療機関に受診できない障害者に対し、ヘルパーを派遣し病院に付き添い、通院時に必要となる移動の介助や医師からの指示に対し本人にわかりやすく説明したり、医師に本人の病状等を説明する支援・援助をおこなった。

II 移動支援実績(延べ件数)

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人員	4	5	4	4	3	4	5	6	9	6	5	4	59
延べ支援件数	5	8	5	8	7	8	9	9	21	9	9	5	103

居宅介護実績(延べ件数)

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人員	6	5	7	9	10	10	11	8	5	11	9	12	103
延べ支援件数	10	9	13	17	20	14	18	17	19	19	14	19	189

支援センターあまみ・ホームズあまみ

I 事業内容

○就労支援	就労継続支援事業 B 型、就労移行支援事業、就労定着支援事業 大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業協同組合(エル・チャレンジ)に係る清掃事業
○生活支援	共同生活援助(グループホーム)の運営 日中一時支援事業
○相談支援	特定相談支援事業(計画相談) 一般相談支援事業(地域移行、地域定着) 障害児相談支援事業 松原市障害者等相談支援事業(松原市委託)
○その他	夕食提供

II 令和元年度重点課題

1. 支援センターあまみ・ピカイチ（就労支援）
 - ・採算の確保策
 - ・選ばれる事業所としての特徴ある事業の展開
2. 支援センターあまみ（相談支援）
 - ・相談支援専門員の育成
 - ・松原市の委託事業の内容精査
3. ホームズあまみ（共同生活援助・短期入所）
 - ・利用者ニーズに応じた支援の充実、関係機関との連携
 - ・世話人及び生活支援員の確保（70歳定年問題への対応）
 - ・通院支援の増加への対応

III 課題への取り組み

1. 支援センターあまみ・ピカイチ（就労支援）
 - ・4月に定員変更を行い、就労移行6名・就労継続支援B型14名としたことによる基本報酬の向上。また7月には、就労継続支援B型の目標工賃達成指導員配置加算を申請。収益は改善したが、引き続き赤字決算の見通し。
 - ・小集団プログラムにより個別のニーズに対応を図ってきた（漢字検定、SST、調理、ボッチャ、パソコン教室、図工その他）
2. 支援センターあまみ（相談支援）
 - ・相談支援について、法人全体で体制の見直しがあり、規模を縮小し、業務を整理することとなった。

- ・委託相談支援事業の内容について、松原市と交渉したが、財政や市内事業所の状況もあり、課題は次年度持ち越しとなった。

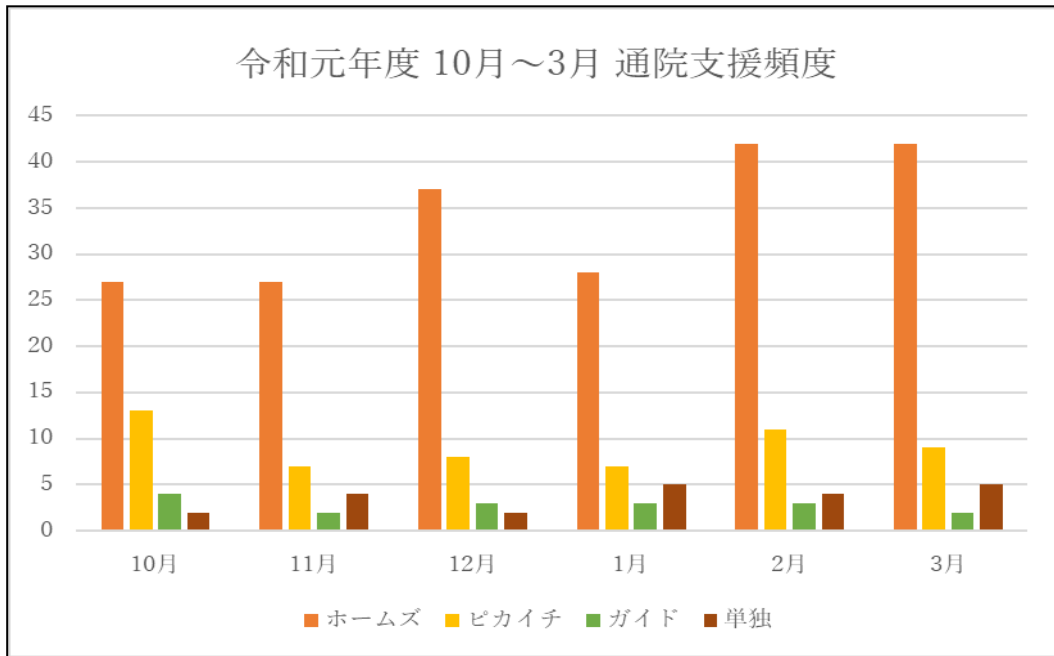
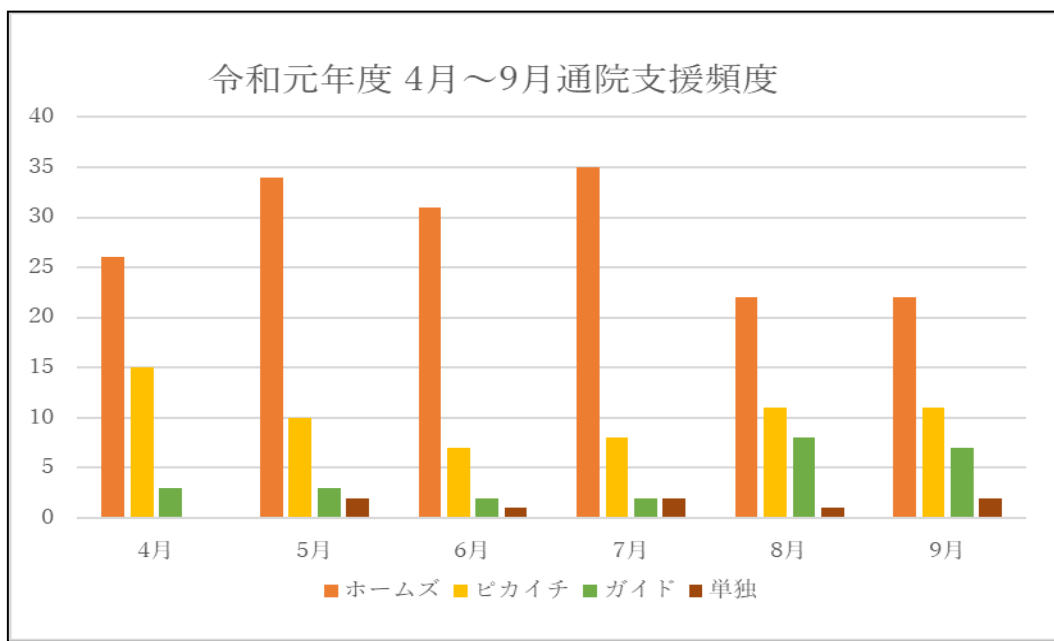
3. ホームズあまみ（生活支援）

- ・共同生活援助は、利用者が高齢化・重度化しているため、通院同行の頻度が増加した。支援センターあまみに応援してもらい対応をおこなった。
- ・世話人確保が急務であったが、インターネット、シルバー人材センターと連携しポスティングを行い、一定の世話人の確保が出来た。70歳以上の高年齢の世話人、シルバー人材センターからの派遣の世話人もいるため、今後も世話人確保が必要である。令和元年度新規世話人採用者数 13 名、登録制世話人 7 名
- ・令和元年 9 月～医療連携体制加算を申請し、各ホーム訪問看護師月 2 回訪問。チャットワークや電話にて 24 時間の連携体制を構築し情報共有を行った。また、急な体調不良の利用者が出た場合は、随時訪問してもらった。
- ・短期入所事業は稼働が少なく、世話人の確保も課題であり令和 2 年 3 月で事業廃止。

通院支援状況（R1.10～R2.3）

月	ホームズ	ピカイチ	ガイド	単独
4 月	26	15	3	0
5 月	34	10	3	2
6 月	31	7	2	1
7 月	35	8	2	2
8 月	22	11	8	1
9 月	22	11	7	2
上半期（計）	170	62	25	8
平均	28.3	10.3	4.1	1.3
上半期総合計 / 月平均	265 / 44.1			
10 月	27	13	4	2
11 月	27	7	2	4
12 月	37	8	3	2

1月	28	7	3	5
2月	42	11	3	4
3月	42	9	2	5
下半期（計）	203	55	17	22
平均	33.8	9.1	2.8	3.6
下半期総合計 / 月平均	297 / 49.5			
年間総合計	373	117	42	30
平均	62.1	19.5	7	5
年間総合計 / 月平均	562 / 46.8			



IV その他プログラムや、事業の特筆すべき事項など

*一体感のある運営のため、あまみ連絡会（月2回）、電子会議システムを活用した。

V 年間行事、日課など

1. 日課（支援センターあまみ・ピカイチ）

午 前		午 後	
9:00～9:30	出勤 着替え・準備	13:00～14:00	午後プログラム①
9:30～9:45	ラジオ体操 朝礼	14:00～14:15	休憩
9:45～10:45	午前プログラム①	14:15～15:15	午後プログラム②
10:45～11:00	休憩	15:15～15:30	片付け・終礼
11:00～12:00	午前プログラム②	15:30～16:00	清掃・退勤
12:00～13:00	昼食・休憩		

2. 年間行事

月	年間行事
4月	14日（日）バスケットボール観戦 30日（火・祝）ピクニック（長居公園）
5月	4日（土）余暇プログラム（焼きそばランチと映画） 12日（日）大阪府スポーツ大会 陸上 25日（土）同大会 ボウリング
6月	16日（日）つな good ボウリング 29日（土）漢字検定
7月	7日（日）日帰りバスツアー（大障協）
8月	14日（水）お盆行事「カレーライスづくり」 15日（木）お盆行事「あまみサマー☆フェスタ」
9月	7日（土）歯科医師、歯科衛生士による歯科検診 16日（月・祝）大阪大会（大阪市）
10月	6日（日）あまみボウリング大会 19日（土）スポーツフェスタ 陸上 20日（日）同 ボウリング 26日（土）松原市ポッチャ大会
11月	24日（日）松原市ふれあい交流運動会

12月	1日（日）日帰りバスツアー（大障協） 21日（土）あまみ利用者忘年会
1月	11日（土）もちつき大会エルチャレンジ新春ボウリング 19日（日）エルチャレンジ新春ボウリング
2月	8日（土）漢字検定
3月	21日（土）プロレスビデオ観戦 ※新型コロナウイルス感染拡大のため、プロレス観戦および日帰りバスツアーは中止。作業室でプロレスビデオ観戦を行った。
<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議：毎月 第2水曜日（伝達研修を含む） ・あまみ連絡会：毎月2回（リスクマネジメント委員会・虐待防止委員会・入所調整会議） ・世話人定例会：毎月1回（2日にわけて開催） ・ドリーム会連絡会（家族会）：年4回開催（4月は総会、9月は大阪大会） 	

VI 事業概況

1. 支援センターあまみピカイチ

①利用者の状況

◎就労移行支援・就労継続支援B型

(人)

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
在籍者	35	34	34	33	33	33	33	32	32	30	31	32	
当月入所者	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	
当月退所者	1	0	1	1	0	0	1	0	2	0	0	0	
就労移行	男性	5	4	4	4	3	3	3	2	2	2	3	3
	女性	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2
	計	6	5	5	5	5	5	5	4	4	4	5	5
	利用率	102	70	77	67	61	67	72	67	56	54	67	65
就労継続B型	男性	16	17	17	17	17	17	17	17	17	15	15	15
	女性	13	12	12	11	11	11	11	11	11	11	11	12
	計	29	29	29	28	28	28	28	28	28	26	26	27
	利用率	125	125	125	125	116	125	125	125	123	113	115	125

※利用率（％）：当月の延べ人数÷定員*開所日数

◎就労定着支援

(人)

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
在籍者	9	9	9	7	7	7	6	6	6	6	5	5	
当月入所者	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
当月退所者	0	0	2	0	0	1	0	1	0	1	0	1	
就労定着	男性	7	7	7	6	6	6	5	5	5	5	4	4
	女性	2	2	2	1	1	1	1	2	1	1	1	1
	計	9	9	9	7	7	7	6	7	6	6	5	5
	実績	9	9	9	7	7	7	6	7	6	6	5	5

②その他利用者情報（障害支援区分と援護市の状況）

(人)

事業名	就労移行	就労継続B型	就労定着	
障害支援区分	区分6			
	区分5		2	
	区分4		5	2
	区分3	1	8	
	区分2		1	2
	区分1			
	区分なし	4	11	2
援護市別利用者数	松原市 4 大阪市東住吉区 1	松原市 18 大阪市旭区 1 大阪市平野区 2 岸和田市 2 富田林市 1 東大阪市 1 藤井寺市 2	松原市 5 河南町 1	

③年齢の状況

(人)

事業名		就労移行	就労継続B型	就労定着
19歳以下	男			
	女			
20歳～29歳	男	1	3	3
	女	2	3	1
30歳～39歳	男		2	
	女		3	
40歳～49歳	男	2	2	1

	女		5	
50歳～59歳	男		5	
	女		1	
60歳～69歳	男		2	
	女			
70歳以上	男		1	
	女			
平均	男	39.7	46.3	30
	女	22	39.3	21

2. ホームズあまみ

①利用者の状況

利用者/月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者		48	48	48	48	48	47	47	48	48	48	48	48
当月入所者		1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
当月退所者		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
共同生活援助	男性	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43
	女性	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	計	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48
	利用率	99	99	99	99	99	99	98	99	98	97	99	98
短期入所	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	利用率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※利用率(%)：当月の延べ人数÷定員*開所日数

②その他利用者情報（障害支援区分と援護市の状況） (人)

事業名	共同生活援助	短期入所
障害支援区分	区分6	1
	区分5	7
	区分4	9
	区分3	19
	区分2	10
	区分1	2
	区分なし	
援護市別利用者数	松原市 16 東大阪市 1	

	大阪市 11 八尾市 1 堺市 2 河南町 2 柏原市、岸和田市、羽曳野市 高石市、高槻市、和泉市 茨木市、阪南市、枚方市 斑鳩町、大東市、門真市 大阪狭山市各 1	
--	--	--

③年齢の状況 (人)

事業名		共同生活援助	短期入所
19歳以下	男	—	
	女	—	
20歳～29歳	男	2	
	女	1	
30歳～39歳	男	3	
	女	2	
40歳～49歳	男	2 2	
	女	2	
50歳～59歳	男	1 1	
	女	0	
60歳～69歳	男	3	
	女	0	
70歳以上	男	1	
	女	—	
平均	男	48.7	
	女	36.6	

3. 相談支援事業

特定相談支援事業・障害児相談支援事業・一般相談支援事業（地域移行・地域定着）

①利用者の状況 (人)

事業別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計画相談契約数	82	82	83	83	83	84	84	84	84	84	84	84
(内障がい児数)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
計画面作成件数(者)	4	5	12	3	1	6	6	5	7	7	7	10
計画面作成件数(者)	8	2	6	13	5	3	8	7	4	5	6	8
モニタリング(者)	31	19	39	21	20	31	32	20	38	22	30	34
計画面作成件数(児)	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0

計画作成件数（児）	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
モニタリング（児）	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0
地域定着支援 態勢確保（契約数）	12	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	12
緊急支援（回）	36	33	47	49	41	45	48	31	35	40	31	25
地域移行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4. 就労支援の状況

①就職者の状況（平成31年度 2名）

5月1日 株式会社ショーエイコーポレーション（軽作業）

10月8日 株式会社ドリームリアリティ（食品）

②工賃実績（令和元年度）

月	工賃 総額	就労移行			就労継続B型		
		合計	人数	平均	合計	人数	平均
4月	346,300	124,470	8	15,559	221,830	27	8,216
5月	288,250	105,310	7	15,044	182,940	28	6,534
6月	341,540	98,070	5	19,614	241,970	28	8,642
7月	268,910	92,670	5	18,534	174,600	28	6,236
8月	297,430	72,090	5	14,418	219,140	28	7,826
9月	276,680	61,550	5	12,310	205,820	27	7,623
10月	362,170	82,670	6	13,778	277,280	27	10,270
11月	382,660	90,910	6	15,152	289,520	26	11,135
12月	333,960	88,770	5	17,754	243,990	26	9,384
1月	313,600	77,760	4	19,440	234,320	26	9,012
2月	287,620	77,780	4	19,445	208,080	25	8,323
3月	268,650	49,120	5	9,824	217,270	25	8,691
年間	3,767,770	1,021,170	65		2,716,760	321	
平均	313,981	85,098	5	15,906	226,397	27	8,491

5. 夕食提供利用状況

(人)

夕食提供／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
夕食提供対象人数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
延べ人数	38	38	40	44	38	38	41	38	38	38	29	42

・温かい作り立ての夕食を囲んで団欒をさせていただくことを通じて、サービス利用の必要があるにもかかわらず関係が付きにくい方などが徐々に支援につながっている。

支援センターい～な

I 概要

入所施設であった箕面育成園を大規模改修し、下記事業を運営する「支援センターい～な」となって、2年が経過した。同一敷地内での事業展開のメリットを活かし、各事業所が連携しながら、効率的な運営を行うことを目指した。

ホームズみのおでは、外部の日中活動の事業所を利用することがむずかしい利用者も複数いることから、日中支援型のグループホームへの移行を検討したが、可能な限り社会とのかかわりが保てるよう、使えるサービスを組み合わせながら、地域に目を向けた支援の展開を図ることにした。ホームズい～なは、12月末で、遠方にあった、ゆたかホームを廃止（利便性の良いホームへ転居）し、ホームズの再編を行った。

ゲーテンは、若年層にも利用してもらえるよう、開所日を増やし、見学会や関係機関への働きかけを継続した結果、支援学校から5名の利用に結びついた。

II 事業内容

- | | |
|-------|---|
| ○生活支援 | 生活介護事業(ゲーテン 定員 40名)
共同生活援助事業
(ホームズみのお 4ホーム定員 20名 ・ ホームズい～な 9ホーム定員 41名)
居宅介護 移動支援事業(ヘルパーステーションかやの)
居宅介護支援事業
短期入所事業(ホームズみのお)
日中一時支援事業 |
| ○相談支援 | 一般相談支援事業／特定相談支援事業／障害児相談支援事業 |

III 令和元年度 重点項目

- ① 支援センターい～なの全職員が、担当の事業領域だけでなく相互に乗り入れ、い～な全体の効率的な事業運営をめざします。
- ② 「ホームズい～な」と「ホームズみのお」の連携をさらに深め「ホームズ」として一体となった運営をめざします。また、一人ひとりのニーズにそって適切にグループホームの整備を進めます。
- ③ 「ホームズみのお」では、地域で生活する障がいのある方、その家族の緊急一時的な場として、短期入所及び日中一時支援事業を行います。

- ④ 「グーテン」は、月曜から土曜まで開所するとともに、送迎範囲を拡大したり、支援学校等にも情報を発信したりして、年間を通し利用率の向上をめざします。
- ⑤ 「ヘルパーステーションかやの」の移動支援事業の活用を図ります。そのために、引き続き移動支援従事者研修事業を行い、ヘルパー登録者数を増やします。
- ⑥ 相談事業の効率的な運用をめざします。また、「支援センターい〜な」には高齢の障がい利用者に対して本人を中心とした相談支援専門員と介護支援専門員が連携し、ケアマネジメントの充実をめざします。

IV 重点項目への取り組み

- ① い〜な全体で利用者の生活を支えるために、事業の枠を超えた職員間の連携を試みた。
ホームズの利用者で、箕面育成園から地域移行し、グループホームで生活している人が、55.2%、そのうち、グーテンを利用している人が79.3%である。同一敷地内ではあるが、事務所が別であること、支援の時間帯が異なることから、連携の方法は伝達や記録等で、タイムリーで継続性のある支援とならない場合がある。まずは、職員間の連携のイメージを広げ、利用者の日中の状況や今のニーズ、生活スタイルを共有することを目的に、ホームズや相談の担当職員が、一泊旅行や送迎、土曜開所日などに、支援の業務を行うことから始めた。栄養士は主に、ホームズの利用者の栄養管理や食事支援、世話人への助言の他、支援業務を含むグーテンの調理実習などを行っている。また、い〜な全体の高齢利用者の健康管理を各事業の看護師と連携し実施した。
- ② ホームズ間の連携については、ホームズみのおの主任・課長がホームズい〜なの9か所のホームズの場所を把握し、緊急時の応援体制がとれる仕組みづくりに取り掛かった。一方で、人材不足は深刻で、コーディネーター機能を持つ職員が夜勤などの泊勤務に入ることが多く、日中の連絡調整や世話人への指示、助言ができず、管理業務に支障をきたしている実態が生じている。
- ② 短期入所については、夜勤対応と宿直対応のホームズとに、受け入れができるよう指定変更を行ったことで、利用者のニーズにあった利用の仕方ができるようになった。令和元年度は、ホームズい〜なの利用者の一時避難的な利用ができた。
日中一時支援については、地域生活支援事業であるため、各市町村で事業指定における見解が異なるところもあり、事業の実施に至らなかった。
- ③ グーテン生活介護の開所日を土曜日まで広げたことで、若年の利用者が通所できる事業所として認知されるようになり、支援学校からの新規利用者を迎えることができた。また、開所日が増えたことで、平日と異なるプログラムの内容の充実と、職員体制の整備(特に送迎ドライバーの不足、休みの消化)など、課題もあきらかになり、早急に改善が必要となった。
- ④ 「ヘルパーステーションかやの」は、ホームズみのおの利用者が安心して外出できるよう、日常的に必要な支援や介助が提供できる事業所として位置づけた。まずは、近隣の散歩から実施し、徐々に外出の機会を増やすようにした。また、移動支援従事者研修を実施しヘルパーの確保に努めた。
- ⑤ 相談支援は、3名の相談支援専門員で、障がい児・者の計画相談、地域定着支援を担っている。

登録件数、計画作成件数は横ばいであるが、モニタリング報告書の作成件数が前年比プラス150件となった。これは、モニタリング期間が3か月に1度というケースが増えたためである。

居宅介護支援事業については、専従の介護支援専門員を配置し、ホームズの利用者(第1号被保険者)を中心に、相談支援専門員やホームズ職員、ゲーテン職員と連携し支援を実施した。支援センターい〜な全体として、居宅会議支援事業を導入することにより、加齢に伴う急激な身体状況の変化に対して、介護保険サービスを併用することでさらにきめ細やかな支援が行えるようになった。

V 年間行事、日課など

1. ゲーテン日課

9:30	通所・バイタルチェックなど
10:30	午前の活動
11:30	健康体操 口腔体操など
12:00	昼食 休憩 歯磨き
13:00	午後の活動
15:00	作業終了 片づけ 終礼
15:30	帰宅準備
16:00	退所

2. 年間行事

4月		お花見(千里中央公園)
6月	8日(土)	共に生きるコンサート
7月	5日(金)	七夕行事(家族会行事)
9月	8日(土)	い〜なまつり
9月	16日(月)	大阪大会(グランキューブ大阪)
10月	19日(土)	スポーツフェスタ
10月	26日(土)	あいあいプラザまつり
11月	28日(木)	~29日(金) 一泊旅行
11月		日産労連クリスマスチャリティ行事
12月	25日(水)	忘年会
1月	11日(土)	い〜なもちつき大会(家族会行事)

<定例活動のプログラム>

3B体操・チェアロピクス・書道・動作法・手芸・歌体操・ライフプラザバザー・健康エクササイズ・も

みじ会・お茶会・お華・アート・陶芸・おやつ教室等
 ※ヤングチーム 調理実習月1回・スイミング(月1~2回)

VI事業概要

I 利用者の状況

<ホームズい〜な>

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
定員	43	43	43	43	43	43	43	43	43	41	41	41
空き	3	3	3	4	5	5	6	6	6	4	4	4
当月入所者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当月退所者	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1
	男性	20	20	20	20	19	19	18	18	18	18	18
	女性	20	20	20	19	19	19	19	19	19	19	19
	計	40	40	40	39	38	38	37	37	37	37	37
	利用率	93.0	93.0	93.0	90.7	88.4	88.4	86.0	86.0	86.0	90.2	90.2

<ホームズみのお>

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
定員	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
空き	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1
当月入所者	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0
当月退所者	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
みのお	男性	10	10	10	9	10	10	10	10	10	10	10
	女性	9	9	9	10	9	9	9	9	9	10	10
	計	19	19	19	19	19	19	19	19	19	20	20
	利用率	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	100	100

<ホームズみのお短期> 定員 5

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
男性	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	3	11
女性	12	7	15	7	12	7	9	17	18	11	2	2
計	12	7	15	7	12	7	9	17	20	13	16	13
利用率%	8.0	5.0	10	4.5	8.0	4.6	5.8	11.3	12.9	8.3	11.0	8.3

<生活介護 グーテン>

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者	51	52	52	52	52	52	53	54	54	57	58	58
当月入所者	4	1	0	0	1	1	1	1	0	3	1	0
当月退所者	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
生活介護	男性	26	26	26	26	26	26	27	27	27	27	27
	女性	25	26	26	26	26	26	27	27	27	30	31
	計	51	52	52	52	52	52	53	54	54	57	58
	利用率	82.3	81.8	85.9	86.3	82.9	83.0	87.9	88.9	86.7	82.2	87.5

◎その他利用者情報

事業名	ホームズ い〜な	ホームズ みのお	短期入所	日中一時支援	生活介護
障害支援区分	区分 6	3	7	4	11
	区分 5	14	10	1	21
	区分 4	13	3	1	21
	区分 3	4	0		2
	区分 2	2	0		3
	区分 1 以下	1	0		
援護市別利用者数	寝屋川市 3 豊中市 14 守口市 2 東大阪 市 2 彦根市 1 吹田 市 1 西宮市 1 交野 市 2 門真市 1 箕面 市 5 高槻市 1 堺市 1 大阪市平野区 1 大阪市東淀川区 1 大東市 1	箕面市 5 豊中市 2 豊能町 1 吹田市 5 大阪市 3 松原市 1 池田市 1 摂津市 1 枚方市 1	吹田市 1 箕面市 1 豊中市 4		箕面市 16 豊中市 8 枚方市 1 守口市 2 池田市 1 交野市 2 吹田市 12 寝屋川 市 3 門真市 1 西宮 市 1 東大阪市 2 大 阪市平野区 1 大阪 市淀川区 1 大阪市 東住吉 1 大阪市 中央区 1 大阪市大正 区 1 大阪市浪速区 1 堺市 1 彦根市 1 八尾市 1 摂津市 1 松原市 1

<相談支援>

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計画相談登録者数	104	104	106	105	105	106	106	106	106	105	104	103
(内障がい児数)	19	19	20	20	20	20	20	20	20	20	20	19
計画案作成件数(者)	4	4	6	5	7	5	7	2	2	4	3	9
計画作成件数(者)	12	6	5	5	5	7	5	10	10	9	5	6
モニタリング(者)	26	20	27	28	24	32	28	19	19	27	23	35
計画案作成件数(児)	1	2	1	1	2	5	1	2	2	1	2	2
計画作成件数(児)	2	0	2	1	1	2	5	1	1	2	1	2
モニタリング数(児)	3	11	8	5	10	9	4	9	9	4	9	10
地域定着支援 体制確保(契約数)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
緊急支援(回)	0	5	2	6	5	2	7	6	6	7	6	7
地域移行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
居宅介護支援 登録者数	10	11	11	10	11	11	11	12	14	13	12	11
ケアプラン作成件数	3	1	0	0	0	2	1	2	0	0	2	3
モニタリング件数	10	10	10	9	9	9	10	10	13	13	12	11

◎その他利用者情報

事業名		障がい相談支援		居宅介護支援	
障がい支援区分	区分 6	18	要介護度	要介護 5	0
	区分 5	16		要介護 4	1
	区分 4	18		要介護 3	7
	区分 3	17		要介護 2	2
	区分 2	12		要介護 1	2
	区分 1	1			-
	区分 なし	1			-
	障がい児	20			-
援護市別利用者数	箕面市 87 豊中市 7 吹田市 8 池田市 1 東大阪市 1 寝屋川市 1 門真市 1 大阪市中央区 1 守口市 1 茨木市 1 島本町 1 堺市 1 滋賀県彦根市 1 松原市 1 八尾市 1				
保険者別利用者数	豊中市 5 箕面市 5 寝屋川市 1 吹田市 1				

支援センターさくら

事業内容

I	生活支援部門
1	ホームズさくら（定員 70 名）・ホームズなでしこ（定員 19 名）（共同生活援助事業・グループホーム併設型・空床型短期入所）
2	短期入所・日中一時支援事業
II	相談支援部門
1	さくら相談支援事業
2	大阪あんしん賃貸支援事業
3	北河内東障害者就業・生活支援センター事業
4	大東市障害者インターンシップ事業
5	大東市就労支援コーディネーター活動推進事業
6	大東市障害者職場定着支援事業
III	就労支援部門
1	就労移行支援事業・自立訓練（生活訓練）事業
2	就労継続支援 A 型事業（スワンカフェ&ベーカリー事業）

I 生活支援部門

- 1 ホームズさくら・ホームズなでしこ（共同生活援助事業・併設型・空床型短期入所事業）

【事業概要】

ホームズさくらは 15 か所、定員 70 名、ホームズなでしこは 2 か所、定員 19 名であり合計 17 ホーム、定員 89 名の地域生活を支援している。個別支援計画に基づき、利用者ひとり一人に合わせた支援内容を設定し、地域での単身生活への移行が可能な利用者は、相談支援事業と連携をとりながら、単身生活への移行を支援している。

一方で、ホーム利用者の高齢化等新たな対応と質の高い支援の提供を目指し、平成 28 年秋より、訪問看護を取り入れており、引き続き利用者の健康維持支援と医療体制の充実を図っていく。なお、令和元年度より、訪問歯科を導入しており、今後も利用者の口腔ケアの充実を図るとともに、通院同行にかかる支援時間の抑制を図った。

【令和元年度重点課題及び取組】

- ①（多額の預り金の整理）

ホームズさくらの利用者の預かり金合計は、H31 年度より 130 万円増え 630 万円であるが、ホームズなでしこは 130 万円減少し 450 万である。合計約 1000 万円余りであるが、うち 200 万円は令和 2 年度早期に社協利用へ移行する予定。社協利用の上限は 1000 万円であるが、就労している利用者ですでに 600 万円を超えている利用者が 2 名、700 万円を超えている利用者が 1 名いる。うち 1 名は、金銭トラブルがあったため、保佐人選任の申

し立てをして、弁護士が保佐人になった。

他には、貯金額が一定以上になった場合は、信頼できるご家族がいる場合は、定期預金証書にしてご家族に渡すなどして、預り金が多額にならないように努めた。

②（生活支援の充実）

ホームズさくら・なでしこ合計定員 89 名となり、世話人総数約 60 名であり、ホームの運営に必要な事務が膨大である。特に世話人の給与等雇用管理、利用者の区分認定、家賃補助等行政関係手続き、イベントの集約等、何につけ事務量が膨大であるにも関わらず専任の事務職がない。そのため、支援員が事務作業に手を取られ利用者の生活支援が十分に行えない。職員全体の役割分担を見直し、支援員の事務作業を軽減して利用者の生活支援に時間を取れるよう業務の効率化を進めた。

今年度も、なでしこ・さくらをより一体的に運営し、重要物、金銭袋、ケース記録などすべて 50 音順で収納し、物を探す時間の節約をして事務効率を一層改善した。

医療連携では訪問看護ステーションの看護師と連携しながら、利用者の健康維持支援が充実した。利用者の医療状況によっては個別の訪問看護を依頼し、医療職の関与の程度を高めて利用者の健康維持に努めた。

③（週間予定） ホームズなでしこのみ

毎週月曜日・金曜日 20 時から全体清掃

毎週水曜日 20 時から利用者ミーティング及び居室清掃

④ 年間行事

月	行事等
4 月	
5 月	利用者誕生日会
6 月	利用者誕生日会
7 月	利用者誕生日会 7/7(日)日帰りバスツアー(京都・東映太秦映画村)参加者 24 名
8 月	
9 月	利用者誕生日会
10 月	利用者誕生日会
11 月	お食事会 利用者誕生日会
12 月	利用者誕生日会 クリスマス、忘年会 12/1(日)日帰りバスツアー(三重・伊勢方面)参加者 24 名

1月	利用者誕生日会
2月	利用者誕生日会
3月	利用者誕生日会
<ul style="list-style-type: none"> ・ホームズさくらの誕生日会は各ホームで誕生日の利用者の希望に応じて夕食メニューを決めたり、時には外食をしたり随時している。 ・ホームズなでこの誕生日会は、水曜日の利用者ミーティング時にケーキを購入してお祝いしている。ギターの上手な利用者と職員のキーボードの合奏でハッピーバースデーを演奏して盛り上げた。 ・必要に応じて各ホームごとに世話人ミーティングを実施している。 (令和元年度は17ホームで合計120回世話人ミーティングを実施した) 	

⑦ 事業概況

1. 利用者の状況

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者	86	86	88	87	87	86	86	86	86	86	86	86
当月入所者	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当月退所者	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
ホームズさくら	男性	49	49	51	51	51	50	50	50	50	50	50
	女性	19	19	19	18	18	18	18	18	18	18	17
	計	68	68	70	69	69	68	68	68	68	68	67
	利用率	86%	86%	88.4%	87.9%	82.7%	86.2%	85.1%	85.6%	83.4%	82.2%	84.6%
ホームズなでこ	男性	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	女性	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	9
	計	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	19
	利用率	91.4%	90.5%	98.2%	97.9%	86.9%	91%	91.9%	92.3%	87.6%	86.2%	93.8%
短期入所	男性	5	7	4	7	8	6	7	6	6	5	6
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	5	7	4	7	8	6	7	6	6	5	6
	利用率											

※利用率 (%) : 当月の延べ人数 ÷ 定員 * 開所日数

その他利用者情報（障害支援区分と援護市の状況）

（人）

事業名		なでしこ	さくら
障害支援区分	区分6		
	区分5	2	7
	区分4	8	25
	区分3	6	17
	区分2	3	17
	区分1	0	0
	区分なし	0	1
援護市別利用者数	大阪市 4人 大東市 6人 寝屋川市 2人 枚方市 2人 交野市 1人 八尾市 1人 堺市 1人 門真市 1人 柏原市 1人	大東市 20人 四条畷市 9人 東大阪市 8人 枚方市 6人 寝屋川市 4人 門真市 3人 大阪市 3人 交野市 4人 八尾市 2人 守口市 2人 柏原市 1人 吹田市 1人 泉大津市 1人 豊中市 1人 松原市 1人 堺市 1人	

（年齢の状況）

事業名		なでしこ	さくら
20歳～29歳	男	3	4
	女	3	6
30歳～39歳	男	4	9
	女	2	5
40歳～49歳	男	3	26
	女	0	5
50歳～59歳	男	0	10
	女	3	2
60歳～69歳	男		1
	女	1	
平均	男	35.8歳	43.7歳
	女	37.3歳	38歳

2 短期入所・日中一時支援事業

【事業概要】

将来に向けて自立生活をイメージした具体的な生活場面での様々な経験を通じ、必要な技術等の習得を支援すると共に緊急時（親の入院・冠婚葬祭等）の支援にも対応できるよう体制づくりを整備する。利用希望者が年々増加、多様化する利用希望に応えられるよう、地域の中で本事業が担う役割を理解し、一人ひとりへの丁寧な支援を実践するとともに、家族へのレスパイトケアを可能な限り効率的に利用の確保を目指す。

地域生活支援事業（日中一時支援）の実施による日中活動の提供など、より幅広いサービスの提供により利用者ニーズに応じていく。

【令和元年度重要課題及び取組】

開所日数について、3日/週からさらに開所日数の増を目指す。職員からの紹介等で宿直要員（夜間専従職員等）を確保し週7日の開所を目指し、令和2年5月から週1日開所日を増やすことが決まり、利用者への周知を行っている。利用者数を確認しながら、利用が遠のいている利用者にも声をかけていく。

◎ 居宅支援サービスの状況（平成31年度）

利用量\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
日帰り4H	19	8	5	6	7	4	11	11	10	7	5	4	97
日帰り8H	20	24	21	24	23	25	27	26	26	23	27	28	268
1泊2日	94	94	118	86	94	94	92	104	82	84	108	78	1128
2泊3日	21	18	8	18	24	33	33	33	24	24	18	21	275
3泊4日	4	14	0	8	0	4	0	0	4	0	12	12	58
4泊5日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5泊6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6泊7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7泊8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緊急一時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宿泊延べ日数計	119	126	126	112	118	131	125	137	110	108	138	111	1461

II 相談支援部門

1 さくら相談支援事業（特定・一般・障害児）

【事業概要】

利用者等がその有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者等の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、利用者等の選択に基づき、適切な保健、医療、福祉、就労支援、教育等のサービス（以下「福祉サービス等」という。）が、多様な事業者から総合的かつ効率的に提供されるよう配慮して行うものとする。利用者等の意思及び人格を尊重し、常に利用者等の立場に立って、利用者等に提供される福祉サービス等が特定の種類又は特定の障害福祉サービス事業を行う者に不当

に偏ることのないよう、公正中立に行うものとする。

【令和元年度課題と対応】

相談支援専門員が1名という体制のなかで、中央支援センターとの統合も試みたが、地域性を考えると業務を遂行する上で、物理的に協力体制を作ることは難しく、総合的かつ効率的な支援までは実施しきれなかった。その為、12月に就労支援統括センターみいーんへ拠点を移し、支援を開始した。今後も引き続き効率的・効果的な支援体制づくりを検討していかなければならない。

◎相談支援

種類／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計画相談総契約者数	74	73	73	71	70	70	70	67	67	67	67	65
(内障がい児数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計画案作成件数(者)	6	5	6	3	7	6	8	8	8	5	4	4
計画作成数(者)	6	7	4	7	2	7	6	8	8	8	6	4
モニタリング数(者)	22	17	21	12	16	15	16	17	16	11	15	13
計画案作成件数(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計画作成数(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
モニタリング数(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域定着支援 態勢確保(契約数)	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	5
緊急支援(回)	0	0	0	0	0	0	1	9	11	2	7	4
地域移行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2 大阪あんしん賃貸支援事業(大東市)

【事業概要】

民間賃貸住宅に入居を希望する知的障がい者が、円滑に入居できるよう、民間賃貸住宅に関する情報提供や様々な居住に必要な福祉サービス支援の情報提供等を行なう。平成30年度は実績なし。

3 就労支援統括センター 支援センターみいーん

就労支援統括センターみいーんは法人内の就労支援を統括していくセンターとして、平成30年4月より大東市(住道)にて設置され、丸2年が経過した。令和元年度はワーカーの年度途中での交代など、人員不足に加え体制が整わず、職員の協力体制の元、何とか1年を乗りきることが出来た。

令和元年12月より相談支援事業をみいーんで行う事になり、多角的に地域での支援を行うことが出来、組織の幅が広がった。

(1) 北河内障害者就業・生活支援センター事業

【事業概要】

就業と生活を一体的に支援する本事業は、本年度においても、就業・生活相談の取り組みと、障害者雇用啓発という両面からその活動を行った。

手帳を持たない方の相談が増加するなか、北河内圏域の労働機関及び各大学と協力し、障害のある大学生へのアプローチの足掛かりを作ることで学生自身の障害に対する理解を深める取り組みや、関係機関への周知活動を行った。その中で、北河内圏域の就業・生活支援センター、圏域所在大学と連携して学生保護者向けに啓発イベントを行い、30名の参加があった。

また、昨年度に引き続き、精神保健福祉士を就業支援ワーカーとして配置、今年度は心理職の配置を行い、両方の専門職を合わせて週3日配置することが出来、支援体制の強化を図った。

【令和元年度重点課題及び取組】

大阪市内に電車で乗り換えなしで行けることもあり、就労を目指す相談者が比較的準備性が整わなくても収入が得られる就労継続A型事業を選択する傾向が近年続いており、A型への行政指導が厳しくなる中、閉鎖したA型事業所もあり、相談者の行き場がなくなるといったケースも見られた。

また、高等支援学校の整備が進み、高校卒業と同時に就職する学生が増える中、支援学校全体では就職率が変わっていない事を鑑みると、就職希望者が高等支援学校に集約されたという側面も否めない。当センターとの関係で置き換えると、センター設置地域がたまたわ高等支援学校・むらの高等支援学校に比較的近い距離で挟まれており、両校の卒業者に加え地域の支援学校の卒業生が4月に一斉に就労する事で時期的に集中した支援が求められる。また、支援の中で18歳の若さで社会性が身に付いていない状態から、社会に出ることでのトラブルも多くなっている。

手帳非保持者（障害のある大学生等）への対応については北河内圏域の労働機関及び各大学と協力し、障害のある大学生への支援の試みを話し合う会議を開催した。

また、就労定着支援事業を実施する事業所が増え連携の形が変容してきている。幸い3年半で支援を打ち切るといった極端な事業所は地域には無い為、いい連携がとれている。

その他プログラムや、事業の特筆すべき事項など

- 働いている方の就職相談（定着支援相談）を定期的で開催し、就労状況の確認と共に余暇の支援を行った。（毎月1回土曜日または日曜日）
- エンパワメント研修を上記の相談と同日で開催（隔月1回土曜または日曜日）
- 人事異動を鑑みて今年度より登録者1名に対し、担当ワーカーを2名の体制をとり、支援の分担を行ったことにより細かな支援を行えている。

内 容	件 数 等	備 考
新規相談人数	80 名	(内訳) 知 26 精 33 身 7 その他 14 発達 10 高次脳 2

		難病 1 その他 1
延相談件数	2475 回	
職場訪問による定着支援	247 回	※実習支援、訪問付き添い、アフターケア等
就職者	73 名	(内訳) 知 41 精 25 身 2 その他 5 発 4 その他 1

(2) 大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業協同組合（エル・チャレンジ）

【事業概要】

令和元年度は活動 20 周年を迎え、記念講演・イベントを実施した。

日常清掃訓練においては、訓練生の就職に向けて意欲・技能の向上を目指す。そのために定期的に現場を訪問し、訓練生及びサポーターに対しての支援を実施する。令和元年度は夕陽丘高等技術専門校の再編が終わり、訓練現場として再始動した。

短期清掃訓練においては、可能な限り訓練現場周辺地域の各支部に参加していただくとともに、就労意欲への足がかりとなるよう努めると共に工賃が報酬単価に影響を及ぼす B 型事業への作業提供を積極的に行ったが、B 型事業所の参画が少なかった。

(3) 大東市委託事業

①大東市障害者インターンシップ事業

【事業概要】

大東市役所の業務等を通じて障害者の就労意欲を高め、就労後の職場定着の促進を図る。

【令和元年度課題と取組】

年度当初に応募者がいなかったことから、実施が 9 月からになってしまった。これまでは募集の開始を 5 月中旬に行っていたが、今後は前倒して 4 月から募集することになる。

市役所での体験就労を踏まえ、ステップアップの意味で協力企業での実習も行っているが、次年度から追加で 1 社受け入れ可能になる。

また、2 年続けて大学生の利用があり、ニーズの高さがうかがえる。

令和元年度 5 名実施（知的障害 3 名、精神障害 2 名）

②大東市就労支援コーディネーター活動推進事業

【事業概要】

前年度と相談数は大きく変わっていない。そんな中、就業・生活支援センターをはじめとする関係機関に相談者の誘導を行った。

次年度も引き続き、ハローワークとの連携に力を入れ、実績を上げていきたい。

【令和元年度課題と取組】

景気が上向していることから相談数は大きく増えていない。そんな中、就業・生活支援センターをはじめとする関係機関に相談者の誘導を行った。

次年度は、ハローワークとの連携強化に力を入れ、実績を上げていきたい。

③大東市障害者職場定着支援事業

【事業概要】

当センター内に職場定着支援コーディネーター1名を配置する。障害福祉サービス事業所（就労移行支援事業・就労継続支援B型事業等）を退所後、企業に就職された障害者に対して、所属していた障害福祉サービス事業所の協力を得て支援員を派遣していただき、職場定着をサポートする。

【令和元年度課題と取組】

今年度は、障害福祉サービスの「障害者就労定着支援事業」が実施され、それを受け、新制度を利用する事業所に関しては大東市障害者職場定着支援事業の利用は出来なくなった。昨年度に引き続き大東市民であれば他市の福祉事業所でも利用できていたが平成元年度もその利用も出来なくなっている。その代わりに大東市内であれば自立訓練・生活支援の事業所が利用可能となったが、そもそものニーズは少なく本年の新規利用の数は0件であった。一方、定着支援員の養成講座においてはそのニーズが高く、多数の参加者を得て講座は盛況であった。

次年度に向けては、大東市と協議を重ねており、定着の部分だけでなく就労支援全体に活用できる制度設計を行いたいと市は考えており、地域ニーズの調査を協力して行う事にする。

（4）訪問型職場適応援助者（ジョブコーチ）

【事業概要】

職場適応援助者支援事業は、職場に出向き、障害特性を踏まえた直接的で専門的な支援を行い、障害者の職場適応、定着を図ることを目的としている。

その支援は障害者本人だけでなく、事業所や障害者の家族も支援の対象としており、事業所の上司や同僚による支援（ナチュラルサポート）によってスムーズに移行していくことを目指す。

【令和元年度課題と取組】

元年度は3名のジョブコーチ登録でスタートし、年度途中で3人目を追加登録した。1名は年間を通じて活動できたが、もう2名は他業務と兼務しており全体件数としては伸びていない。令和2年度は体制を整え、実施件数の増加を目指す。

Ⅲ 就労支援部門

1. 就労移行支援事業、自立訓練事業、就労定着支援事業

【事業概要】

利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、当該利用者に対して就労移行支援・自立訓練（生活訓練）とも標準2年間にわたって、生産活動その他の活動の機会を通じて、就労及び社会生活に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の便宜を適切かつ効果的に行うものとする。加えて、今年度より就職後のフォローアップとして、就労移行支援事業で就労後半年間のサポートを行い、それ以降～3年半を就労定着支援事業にてフォローアップを行い、安定した就労をサポートしていく。

【令和元年度課題と取組】

利用者確保の為に支援学校だけでなく、障害者就業・生活支援センター、福祉サービス

等と連携を行い、地域のニーズの確認を行い、令和2年度の4月1日に就労移行支援は定員24名から18名へ変更を行った。年度途中での入所者は就労移行支援、自立訓練事業を合わせて5名と少なかったが、知的障害者のみならず発達障害者の受け入れを進め、令和2年4月1日の時点では、就労移行支援、自立訓練ともに22名の利用者でスタートすることが出来た。また、現在も就労移行は2名の方の受け入れを調整中である。就労移行支援は年度途中での利用者確保のために継続して実習等の受け入れ、相談支援事業所等との積極的な関係づくりを進めていく。

自立訓練ではプログラムを安定的に提供が出来るように月間スケジュールを立てながら実施を進めた。利用者の状況に合わせてテーマを決めて実施しており、今年度はより質の高いプログラムの提供に努める。あわせて、新入所の方のすべてにTTAPを実施して、利用者、ご家族と共通理解を持って支援が出来るように取り組んだ。

就労移行支援では、リアルな社会生活体験に加えて、利用者のニーズに合わせて作業の整理を行い、パソコンプログラムや面接練習、SST等で本人のニーズや課題に合わせた取り組みを充実させた。

就労定着支援は、平成31年2月から開始して現在、利用者数が13名となっている。就労定着、ジョブコーチ、障害者就業・生活支援センター等を活用しながら、本人、家族、企業が安心して働き続けられるような支援体制を構築している。

1. 日課

午 前		午 後	
9:00	全体朝礼	13:00	プログラム開始
9:10	事業朝礼	14:15	休憩
9:15	プログラム開始	14:30	プログラム開始
12:00	休憩	15:45	清掃、終礼
		16:30	終了

2. 年間行事

月	就労移行支援事業・自立訓練事業
4月	
5月	支援学校向け進路懇談会
6	大阪福祉協会主催ソフトボール大会
7	
8	
9	大東市障害者自立ネットワーク主催 ふれあい運動会
10	スポーツフェスタ（ソフトボール）

11	さくらフェスタ 支援学校向け次年度入所説明会
12	
1	エルチャレンジボウリング大会
2	
3	OB・OG就職者激励会（コロナウイルス感染拡大防止のために延期）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 余暇支援プログラム 4グループに分かれて年間3回実施。 ・ 就労移行 第2土曜日 午前中開所。自立訓練 不定期で休日プログラムを実施している。 ・ 昨年度さくら主催の見学会を実施していたが、個別、支援学校単位での見学会を適時実施している。 ・ OBOG同窓会は開催場所の関係で中止、就職者激励会はコロナウイルス感染拡大防止のために延期している。 	

3. 利用者の状況

(人)

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者	50	51	50	49	50	49	49	44	43	43	41	43
当月入所者	11	2	1	0	1	0	1	0	0	1	1	7
当月退所者	1	2	2	0	1	0	4	2	1	2	1	7
就労移行	男性	14	14	14	14	14	13	8	7	7	6	8
	女性	9	9	9	8	8	8	8	8	8	7	8
	計	23	23	23	22	22	21	16	15	15	13	16
	利用率	69%	92%	92%	92%	81%	82%	91%	64%	59%	54%	50%
自立訓練	男性	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
	女性	5	6	5	5	5	5	6	6	6	6	5
	計	17	18	17	17	17	17	18	18	18	18	17
	利用率	80%	80%	81%	81%	61%	81%	77%	77%	80%	74%	83%
就労定着	男性	0	1	2	2	2	3	5	5	5	6	7
	女性	2	2	5	5	5	5	5	5	5	5	6
	計	2	3	7	7	7	8	10	10	10	11	13

※利用率(%)：当月の延べ人数÷定員*開所日数

※就労アセスメントの利用者は含まれていません。

その他利用者情報（障害支援区分と援護市の状況）

（人）

事業名		自立訓練	就労移行
障害支援区分	区分6		
	区分5		
	区分4	1	4
	区分3	6	7
	区分2	5	5
	区分1		2
	区分なし	8	13
援護市別利用者数	八尾市 1 寝屋川市 4 枚方市 4 大阪市 2 四條畷市 1 交野市 2 東大阪市 1 門真市 3 大東市 2	大東市 6 大阪市 3 交野市 1 枚方市 2 門真市 1 東大阪市 4 寝屋川市 6 四條畷市 4 守口市 2 八尾市 2	

（年齢の状況）

事業名		自立訓練	就労移行
19歳以下	男	8	1
	女	2	2
20歳～29歳	男	5	16
	女	5	9
30歳～39歳	男		
	女		1
平均	男	19歳	25.1歳
	女	20歳	21.5歳

令和2年度工賃（就労移行・自立訓練）

	平均支給額	最高額	最低額
4月	8,722円	32,040円	350円
5月	6,663円	21,580円	60円
6月	7,612円	26,640円	570円
7月	7,964円	26,070円	660円

8月	7,704円	29,490円	260円
9月	8,143円	29,570円	270円
10月	8,173円	29,570円	270円
11月	7,406円	27,280円	640円
12月	10,419円	41,510円	230円
1月	6,154円	23,250円	60円
2月	8,789円	33,300円	110円
3月	7,420円	30,730円	150円

2. 就労継続支援A型事業（スワンカフェペーカリー・ベジハグバーガー）

【事業概要】

店舗での製造及び接客業務又は出張による販売業務等、雇用契約に基づく就労機会の提供を通じ、働く喜びや社会との繋がりを実感できる場の提供を図るとともに、家と職場の往復だけでなく、生活を楽しむための余暇支援を通じて、社会経験を増やし、コミュニケーション力の向上や上手なお金の使い方を身につけるなど、自分らしい豊かな生活の実現にむけた支援を提供した。

【令和元年度の課題と取組】

引き続き、経営改善に向けた取り組みとして主要3プロジェクトを実施した。

飲食サービス業においても必要な支援を受けながら働くことの可能性を提示してきた一方で、経営視点では効率性の確保が難しく赤字解消には至らなかった。「キッチンカープロジェクト」については、年間を通じて販売機会も多く売り上げも前年を上回ったが、年度末の新型コロナウイルスの感染拡大に伴い以降のイベント出店等が軒並み取りやめになるなど活動に支障をきたした。

1. 年間行事

月	就労継続支援A型
4月	阪神百貨店 1F 催事出店 ロハスフェスタ 2019 春（ベジハグ）
5月	親睦BBQ（家族含む） 阪急百貨店 B1 催事出店 BookTravel 茨木（ベジハグ） USJ クルーカフェ販売
6月	
7月	
8月	アンリミテッド・パラ陸上 ロハスフェスタ南港（ベジハグ）

	スワンサマーナイト 2019・14周年イベント 御堂筋天国（ベジハグ）
9月	神戸てくてくパン祭り（ベジハグ） 大東市民まつり臨時営業 堺市役所前広場イベント出店（ベジハグ） 大阪城トライアスロン（ベジハグ） 大阪ガスビル前イベント出店 鎌倉投信運用報告会 ラグビーワールドカップ応援イベント神戸旧居留地（ベジハグ）
10月	阪急百貨店 B1 催事出店 FM802 ChillinVibus2019（ベジハグ） あいあいプラザ祭り（ベジハグ）
11月	ロハスフェスタ 2019 秋（ベジハグ） さくらフェスタ 南郷小学校 PTA バザー しらさぎまつり 大東四條畷農業まつり すみネットバザー
12月	大阪城グレートサンタラン（ベジハグ） あすなろ保育園クリスマスイベント
1月	
2月	南郷保育園バザー出店
3月	※3月予定のイベントはすべて中止 ボランティアフェスティバル 神戸てくてくパン祭り ハッピーアースデイ大阪（ベジハグ）
・毎月：16日はスワンの日として新商品の発表と一定金額以上お買い上げのお客様に粗品進呈（16日が店休日の場合は翌営業日）。	

2 事業概況

1. 利用者の状況

利用者／月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
型 就 労 継 続 A	男性	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	女性	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	計	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10

	利用率	100	103	99	95	93	99	95	98	93	91	99	101
--	-----	-----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

※利用率（％）：当月の延べ人数÷定員*開所日数

その他利用者情報（障害支援区分と援護市の状況）

（人）

事業名		就労継続支援 A 型
障害支援区分	区分 6	
	区分 5	
	区分 4	1
	区分 3	5
	区分 2	1
	区分 1	2
	区分なし	1
援護市別利用者数		大東市 5 大阪市 3 寝屋川市 1 吹田市 1

（年齢の状況）

事業名		就労継続支援 A 型
20 歳～29 歳	男	1
	女	1
30 歳～39 歳	男	1
	女	4
40 歳～49 歳	男	1
	女	2
平均	男	33.1 歳
	女	30.5 歳

支援センターしらすぎ

I 概要

支援センターしらすぎでは多機能型のメリットを活かし、利用者個々に即した自立にむけてのプログラム、また就労に向けて継続した支援に取り組んだ。

4月の新規利用者は、支援学校の卒業生が全てを占めるため、自立訓練事業においては就職活動にむけた準備期間として、「生活力」「コミュニケーション力」「基礎能力」等をねらいとした様々なプログラムを実施した。自立訓練2年目以降及び就労移行支援事業については、就職に向けたプログラムでリアルに体験してもらい、職場見学や職場実習等積極的な展開の中で就職準備支援を定着させた。就労継続支援B型事業においては、就職への取組みを継続し、令和元年度は就労移行支援事業と併せて9名が就職された(就労継続支援A型事業所1名含む)。平成30年10月より始まった就労定着支援については、6名の方と契約を結び、合計13名の登録者となり、しらすぎから就職した利用者に働き続けることの支援をすすめた。しかし、平成30年後期から平成31年度前期の就労移行からの就職定着者が少なかったため、令和2年度の報酬単価に影響が出る結果となった。

地域活動支援センターは、開設以来8年目となる今年度、人員配置が難しくなったことから、令和元年8月より週6日開所から週5日開所に変更した。また、新型コロナウイルスによる影響で、堺市からの要請に従い、令和2年2月25日より人を集めるようなプログラムの開催を中止し、また令和2年3月8日より3月21日まで臨時休業した。

センターとしてはこれまでと変わらず、「居心地の良い休息所」「安心できる拠り所」という、様々な人たちの「居場所」となれるよう、地域の方々の協力も得ながら、生きがいつくり・仲間づくりにつながるような活動を展開した。

指定特定・一般相談支援事業、障害児相談支援事業については、相談員が1名減の状況で年度がスタートし、さらに年度途中でもう1名相談員が産休に入るということで、実質1名(管理者兼務)で業務を行った。法人内の協力を得ながらなんとか継続することができたが、前年度に比べると請求件数が減る結果となった。

共同生活援助事業(グループホーム)については、グループホームの支援体制が機能的に働くように、職員・世話人同士のコミュニケーションを大切に、利用者ひとりひとりの生活の質の向上に努めたが、定員を埋めることができなかった。

6床の短期入所事業は、安定した事業運営には至らなかったが、次年度に向けて支援センターしらすぎ、しらすぎ・ネストとの職員間の協力体制を組むための検討を行った。

II 事業内容

就労支援	自立訓練(生活訓練)、就労移行支援、就労継続支援 B 型、就労定着支援
生活支援	共同生活援助、短期入所
相談支援	特定相談支援事業、障害児相談支援事業、一般相談支援事業(地域移行・地域定着)
その他	居宅介護、地域活動支援センター、障害児療育等支援

III 令和元年度重点課題とその取り組み

1. 選ばれる事業所を目指し、しらすぎの経営の安定を図ります

日中の3事業それぞれの特色が見えにくくなっているため、新規入所者においては、自立訓練事業を、社会生活力をつけるためのプログラムを中心とした内容に位置づけることにより、客観的な実態の把握ができ、アセスメントに基づいた、目標設定がしやすくなった。働くことに加え、楽しむことや社会生活を送るうえで身につけておきたいことなどの体験プログラムの実施が、新たに5名の利用に結び付いた。年度当初の利用者数が50名となり、近年の傾向より年度途中で利用を開始する者が見込まれないことから、定員を合計40名に減少させることで基本報酬が増加した。

ホームズしらすぎの共同生活援助事業は、空き室の解消に向けて1名の新たな入居者を迎えることができた。年度末にも入居希望者の体験利用を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、入居者の希望で利用を見送ることとなった。合わせて、個別に課題(粗暴行為を繰り返す方や、重度化した方)を抱える利用者へ適切な環境で支援が受けられるよう取り組んだため、積極的に空き部屋を解消することには至っていない。

2. 利用者の「豊かな暮らし」をさらに追及します

ホームズしらすぎは、医療機関との連携体制を強化するべく、外部の訪問看護ステーションと次年度(6月ごろ)には医療連携体制を整えることができるよう取り組んだ。

短期入所事業については、自立生活に向けた生活訓練を志向した短期入所事業として、開所日はおおむね満床で、次年度に向けては開所日数を増やし、稼働率を上げていくための体制を検討した。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、令和2年3月より利用を自粛している。

居宅介護・移動支援については、サービス提供責任者の人材確保が困難なため、年度途中で廃止する方向で取り組んだ。そのため、居宅介護について、他事業所へ移管するなど令元年9月以降の利用実績はない。また、移動支援事業についてもまずは縮小に向けて対応にあたっていたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、3月から移動支援事業の実施を縮小した。

IV その他プログラムや、事業の特筆すべき事項など

自立訓練のプログラム化を始めて2年目を迎え、しらすぎ内における位置づけも定着した。また、就労プログラムでは本格的な面接練習を定期的の実施し就職活動に向けて実践的な力を

身に付けることが出来た。就労に向けた支援に注力する一方で、高年齢で体力の低下を感じる利用者や就職を目標としながらも福祉サービス日中活動が適当と思われる利用者には穏やかな作業支援プログラムの確立が課題となった。

V 年間行事、日課など

1. 日課

午 前		午 後	
8:45	通所	12:00～13:00	昼食・休憩
9:00～	体操、ランニング	13:00～16:00	作業
9:20	朝礼	16:00	清掃、終礼
9:30～12:00	作業	16:30	終了、帰宅

2. 年間行事

月	自立訓練事業・就労移行支援事業・ 就労継続支援B型事業	共同生活援助
4月	・堺市障害者スポーツ大会 (ソフトボール)	・土曜サロン(いちご狩り)
5月	・作業参観・懇談会	
6月	・進路担当者懇談会 ・つな good ボウリング	・土曜サロン(ランチバイキング)
7月		
8月		
9月	・利用者旅行(一泊・日帰り) ・第60回大阪大会	・世話人研修(障害理解)
10月	・利用者健康診断	・合同BBQ
11月	・しらさぎ祭り	
12月	・忘年会	・育成会旅行 ・世話人研修(災害に備えて)
1月		・土曜サロン(新年会)
2月		・世話人研修(ストレスと付き合い方)
3月	・避難訓練 ・交通安全講習会	

- ・毎月:休日プログラム(土曜日)
- ・毎月:10日 310 商友会清掃
- ・毎月:第3木曜日 家族会

VI 事業概況

1. 利用者の状況

①相談支援以外

(人)

利用者/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者	50	50	49	49	49	48	45	45	44	43	41	41
当月入所者	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
当月退所者	1	1	0	0	1	3	0	1	1	2	1	2
自立訓練	男性	15	15	14	14	14	13	13	12	12	12	13
	女性	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3
	計	19	19	18	18	18	17	17	16	15	15	16
	利用率	88.4	117.7	114.2	110	95.3	101.5	95.6	100.3	85.5	91.1	83.8
就労移行	男性	16	16	17	17	17	15	15	15	15	13	12
	女性	4	3	3	3	3	3	3	3	4	3	3
	計	20	19	20	20	20	18	18	18	19	16	15
	利用率	88	116.8	123.9	124.2	110.3	113.3	113.3	112.4	115.5	102.5	93.7
就労継続B型	男性	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10
	利用率	109.1	100.9	100.9	102.5	89.6	85	89.6	84.5	90.5	91	85.7

※利用率(%): 当月の延べ人数÷定員*開所日数

その他利用者情報(障害支援区分と援護市の状況)

(人)

事業名	自立訓練	就労移行	就労継続B型	共同生活援助
障害支援区分	区分6			1
	区分5		2	8
	区分4	1	1	4
	区分3	4	4	12
	区分2	4	3	16
	区分1	0	1	4
	区分なし	7	4	0
援護市別利用者数	堺市 11	堺市 12	堺市 9	堺市 36

	大阪市 1 大阪狭山市 1 和泉市 1 泉大津市 1 河内長野市 1	大阪狭山市 1 松原市 1 泉大津市 1	大阪市 1	泉大津市 3 高石市 2 八尾市 2 大阪市 1 和泉市 1
--	--	----------------------------	-------	--

(年齢の状況)

(歳)

事業名		自立訓練	就労移行	就労継続B型	共同生活援助
19歳以下	男	6			
	女				
20歳～29歳	男	6	7	3	4
	女	3			1
30歳～39歳	男	1	2		7
	女		2		1
40歳～49歳	男		3	1	14
	女		1		6
50歳～59歳	男			6	8
	女				1
60歳～69歳	男				1
	女				1
70歳以上	男				
	女				1
平均	男	20.6	30.2	40.9	43.3
	女	20.3	40		47.6
		22.4	31.8	40.9	44.4

②相談支援事業

<特定相談支援事業・障害児相談支援事業・一般相談支援事業(地域移行・地域定着)>

種類/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計画相談総契約者数	68	68	68	67	67	68	68	68	68	68	67	65
(内障がい児数)	14	14	14	14	14	15	15	15	15	15	14	12
計画案作成件数(者)	4	3	7	5	4	3	6	8	3	4	2	9
計画作成数(者)	7	1	6	5	3	3	3	5	8	2	2	7
モニタリング数(者)	24	17	22	20	15	19	16	11	21	18	11	17
計画案作成件数(児)	0	4	1	1	0	1	2	1	2	1	1	1

計画作成数(児)	3	1	3	2	0	2	0	1	1	0	4	1
モニタリング数(児)	3	2	3	1	3	3	0	4	2	1	4	3
地域定着支援 態勢確保(契約数)	22	22	22	22	22	22	22	21	21	21	21	21
緊急支援(回)	2	6	5	10	11	5	8	5	1	1	3	5
地域移行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3. 就労支援の状況（実習実績、工賃支給実績、就ポツ、JC、エルチャレなど）

① 求職・就職・実習の実績（人）

月	職安	面接	就職	実習
4	7	2	1	115
5	8	0	0	109
6	15	6	0	107
7	6	2	0	116
8	4	0	1	123
9	17	0	1	119
10	12	5	1	123
11	4	0	1	124
12	6	0	1	132
1	8	1	1	127
2	5	1	1	144
3	0	0	0	143
計	92	17	8	1,482

職安・・・支援員動向による求職活動支援人数（単独で行われた分は計上しない）

面接・・・合同面接会含む

② 就職先の業種（内容）

・清掃業 ・洗車 ・接客、品出し ・軽作業 ・おしぼり洗浄 など

③ 実習先の業種（内容）

・製造業（製品組立） ・おしぼり工場 ・ラウンジ（調理補助） ・エルチャレンジ
（清掃訓練） ・民間マンション清掃 ・スーパー、薬局（接客、品出し）
・アパレル（バックヤード）

④ 平均工賃（1人当たり：月額）

	就労継続B型	就労移行・自立訓練
4月	7,537円	10,321円
5月	7,526円	10,408円
6月	7,850円	10,558円

7月	8,393円	11,186円
8月	7,740円	10,431円
9月	6,652円	9,751円
10月	7,414円	12,294円
11月	6,865円	11,955円
12月	7,489円	11,726円
1月	6,927円	10,643円
2月	6,312円	9,892円
3月	7,961円	11,213円
賞与	12,429円	12,603円
月平均支給額	6,481円	9,675円

⑤ 職場適応援助者(ジョブコーチ)支援制度実績…今年度実支援人数 27名

使用者(障害種別内訳)

知的障害			精神障害	身体障害	その他	合計
B2	B1	A				
3	10	4	3	2(2)	0	22(2)

※()重複者数

活動実績(延べ件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人員	7	4	6	6	5	5	8	6	7	9	3	5	71
延べ支援件数	15	9	9	12	10	13	13	15	17	17	12	17	159

4. 生活支援状況(地活、定例実施のプログラム状況など)

地域活動支援センター利用人数(延べ)

種類 / 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用登録者数	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32
登録者来所総数(延べ)	197	212	202	222	174	180	192	176	175	172	147	90	197
登録者以外の 利用者総数(延べ)	185	218	214	217	196	201	222	219	173	185	173	68	185
一般見学者等(延べ)	11	21	12	7	0	6	約 1000	5	0	6	4	0	11

地域活動支援センター活動実績

プログラム名称	開催場所・日時等	延べ活動回数	延べ参加者数	障害者延べ参加者数	その他延べ参加者数
・ネストサロン	施設内(第3金曜 18:00~20:00)	11回	89人	86人	3人
・しらすぎ花友会	白鷺周辺(毎月25日 8:00~9:00)	2回	4人	2人	2人
・お菓子を作ろう	施設内(第2日曜 13:30~17:00)	11回	73人	63人	10人
・お茶を体験しよう	施設内(第3日曜 13:30~15:00)	6回	32人	28人	4人
・おし花をしよう	施設内(第4日曜 13:00~16:00)	9回	59人	44人	15人
・ネストーク	施設内(第2水曜 16:30~17:30)	11回	62人	55人	7人
・ネスト寺子屋	施設内(第4水曜 16:30~17:30)	10回	55人	50人	5人
・ネストミーティング	施設内(第1水曜 14:00~15:00)	11回	38人	38人	0人
・ネスト de ディナー	施設内(第4金曜 18:00~20:00)	10回	120人	111人	9人
・ぬり絵をしよう	施設内(第2,4木曜 14:00~15:00)	21回	60人	53人	7人
・花見に行こう	白鷺公園(4/7 13:00~16:00)	1回	6人	6人	0人
・散歩をしよう	白鷺周辺(第1,3木曜 14:00~15:00)	11回	15人	14人	1人
・スポーツをしよう	支援センターしらすぎ・白鷺公園 4/10・5/8・7/17・9/18=13:30~15:00 10/16・11/6=14:00~15:00	6回	26人	26人	0人
・YouTube でカラオケ	施設内(6/30 13:30~15:00) (7/1・9/2 13:30~15:00) (2/9 13:30~16:00)	4回	31人	27人	4人
・DVD 鑑賞会	施設内(6/2・7/7 13:30~15:00)	2回	8人	8人	0人
・ちょこっとパステル	施設内(第2・4火曜 13:30~15:00)	8回	12人	4人	8人
・wii でスポーツ	施設内(第1・3木曜 14:00~15:30)	2回	3人	3人	0人
・wii で遊ぼう	施設内(毎週月曜 13:30~15:00)	11回	12人	12人	0人
・ネスト7周年記念 パーティー	施設内(5/12 13:30~16:00)	1回	12人	10人	2人
・お盆企画	施設内(8/13 12:00~17:00)	1回	8人	7人	1人
・しらすぎ祭り	センターしらすぎ (11/17 10:00~15:00)	1回	49人	49人	0人
・しらすぎとくとく祭	白鷺周辺(10/3 10:00~11:00)	1回	6人	6人	0人
・白鷺ハッピーハロウィン	白鷺周辺(10/31 11:00~19:00)	1回	994人		大人 171人 子供 823人
・クリスマス会	センターしらすぎ(12/8 12:30~15:00)	1回	8人	8人	0人
・書初め	施設内(1月第2週 14:00~17:00)	1回	6人	6人	0人
・初詣	出雲大社大阪分祀 (1/5 13:00~16:00)	1回	7人	7人	0人
・七草がゆ	施設内(1/5 16:00~19:00)	1回	7人	7人	0人
・新年会	施設内(1/12 12:00~16:00)	1回	14人	12人	2人
・さくら会・友だちの会・し らすぎ・ネスト交流会	ファインプラザ大阪 (1/19 9:30~12:00)	1回	8人	8人	0人
・節分企画					
・つなgood	施設内(2/2 12:00~17:00)	1回	17人	14人	3人
ボウリング	弁天町グランドボウル	1回	5人	5人	0人

・センターで遊ぼう！	(6/16 10:00～12:00) 支援センターしらさぎ	1回	6人	6人	0人
・ネスト de ランチ	(8/4 13:00～16:00)	1回	14人	14人	0人
・ボウリングをしよう	施設内(9/1 12:00～17:00) ラウンドワン堺中央環状店	1回	12人	12人	0人
・センターでBBQ	(9/29 13:30～17:00) 支援センターしらさぎ	1回	7人	7人	0人
	(10/6 10:00～15:00)				
合計		164回	1885人	808人	1077人

5. 居宅介護活動実績

居宅介護等事業（ホーム・ガイドヘルプサービス事業） 派遣件数（平成30年度）														
（障害者等） 堺市														
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
派遣家庭実数	26	25	29	25	28	25	28	29	26	24	25	28		
〃（児童）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
延派遣回数	移動支援（者）	56	53	62	53	59	49	58	57	54	48	49	56	654
	移動支援（児童）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	居宅介護（者）	32	34	32	33	34	33	37	38	34	29	32	36	404
	計	88	87	94	86	93	82	95	95	88	77	81	92	1058
<p>※（派遣家庭実数）・・・一利用者に、身体・家事・移動等が重複していても、実数は一回としてカウントする。</p> <p>※（延派遣回数）・・・サービス提供時間内に複数のヘルパーが連続して対応していた場合の派遣回数は1回とする。 （例：8:00～14:00の6時間を2Hずつ3名のヘルパーで対応した場合、派遣回数は1回になる。）</p> <p>二人同時介護は、1回になる。</p> <p>同日に、途中で時間が空いて派遣した場合は2回になる。 （例：朝3H、夕方2H等の派遣の場合2回になる。）</p>														

堺市以外													
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
派遣家庭実数	1	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1	1	
〃（児童）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
延派遣回数	移動支援（者）	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2	16
	移動支援（児童）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	居宅介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2	16

支援センターねぎぼうず

I 概要

常に安心・安全な運営を心がけ、安定した稼働率（原則日数）の確保に努めた。年度当初から利用者の増員を目指していたが、結果利用者の増員には至らなかった。プログラムにおいては、心身の健康と安定をねらって、外出や体操などに積極的に取り組んだ。

地域の親の会の方よりGHを新設したいとの相談を受け、入居者募集や運営法人の選定など協力し、一定目途をつけていただくに至った。

II 事業内容

○生活介護事業 定員20名

III 課題と取組み

課題

- 現員14名から2名増員を目指し、稼働率を上げる。
- 職員体制の整備を行い、男性支援員（兼ドライバー）、事務員の確保に努める。現在勤務している職員間で業務を共有化し、特定の職員にしかできない業務は減らす。
- 運度不足やストレス発散のため、体を動かすプログラムの日常的な充実に努める。

取組み

- 利用者増員はなし（見学2件あり）
- 職員募集の申込はなし。退職女性の再雇用（週に1日程度）をしたことで、若干体制に余裕が持てた。体制に余裕のある時間を見つけて業務の共有化は、意識の薄さから進展がゆっくりである。また、原則日数に合わせて土曜（午前）開所に努めた。
- 日課スケジュールに体を動かせるプログラム実施（近隣の散歩の頻度を増やし、室内での体操を充実させる）に努めた。新型コロナウイルスの関係で、1月頃から公共施設の利用、買い出しの利用者同伴は控えた。

IV 事業概況

1. 利用者の状況

生活介護事業

（人）

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
当月入所者												
当月退所者												
活 4 男性	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

女性	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
計	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
利用率	58.0	60.0	60.0	57.0	57.6	60.5	59.1	58.4	57.8	59.3	57.9	61.7

※利用率（％）：当月の延べ人数÷定員*開所日数

2. その他利用者情報（障害支援区分と援護市の状況） (人)

事業名	生活介護	就労移行	就労継続B型	共同生活援助
障害支援区分	区分6	1		
	区分5	4		
	区分4	8		
	区分3			
	区分2	1		
	区分1			
	区分なし			
援護市別利用者数	大阪市14名			

3. 年齢の状況 (人)

事業名		生活介護	就労移行	就労継続B型	共同生活援助
20歳～29歳	男	3			
	女	2			
30歳～39歳	男	1			
	女	0			
40歳～49歳	男	0			
	女	4			
50歳～59歳	男	2			
	女	1			
60歳～69歳	男				
	女				
70歳以上	男				
	女	1			
平均	男	34.6			
	女	45.3			

4. 工賃実績・開所日

月	開所日	人数	総支払額	平均金額
4月	22	14	64,750	3,808
5月	23	14	69,250	4,946
6月	22	14	66,000	4,714
7月	23	14	65,500	4,678
8月	23	14	66,250	4,732
9月	22	14	66,500	4,750
10月	23	14	68,500	4,892
11月	22	14	64,250	4,589
12月	23	14	66,500	4,750
1月	23	14	68,250	4,875
2月	21	14	60,750	4,339
3月	23	14	71,000	5,071
ボーナス	247	1 4	116,050	8,289
合計				
平均利用日数・工賃			平均利用日数 207	平均工賃 65,253 円

5. 日課

【日課—平日】

時 間	日 課	備 考
9 : 30	通所、水分補給	※日中に近隣公園等をウォーキング。
10 : 00	朝礼、ラジオ体操	
10 : 15	作業開始	
11 : 00	水分補給 (5分~10分)	
11 : 50	作業午前終了	
12 : 00	昼食・休憩	
13 : 00	作業開始	
14 : 00	水分補給・ラジオ体操 (10分)	
15 : 00	作業終了、片付け、清掃	
15 : 50	終礼	
16 : 00	降所	毎週金曜 14 : 40 体操 (体操教室のおさらい) ※14 : 00 の体操は無し。 15 : 00 喫茶サービス

【日 課—土曜開所】

時 間	日 課	備 考
9 : 30	通所	* 土曜日 (余暇・創作的活動) 外部ボランティア、外出、季節の行事 等はセンターカレンダーにて周知。
10 : 00	朝礼、ラジオ体操、水分補給	
10 : 00	余暇・創作的活動	
11 : 00	水分補給 (5分~10分)	
12 : 00	昼食・休憩	
13 : 00	余暇活動・創作活動	
13 : 50	終礼	
14 : 00	降所	

6. 年間行事、

月	内 容	月	内 容
4 月	花見 ハイキング (服部緑地公園)	10 月	大正区民祭り、芋ほり (中と合同) スポーツ交流会、健康診断 入浴サービス
5 月	バーベキュー (服部緑地公園) 避難訓練、入浴サービス	11 月	地域交流きらめきパーティー 日帰り旅行 (和歌山方面) 健康診断、地域防災訓練

6月	育成会つなgoodボーリング大会 入浴サービス	12月	カラオケ（ジャンカラ大正店） クリスマス会（兼保護者会） 忘年会、冬期休所（12/29～1/3）
7月	七夕、入浴サービス	1月	冬期休所（12/29～1/3） 新年会、初詣、
8月	夏祭り、夏期休所（8/13～15） 入浴サービス	2月	節分、避難訓練
9月	社会見学（アサヒビール工場見学） 大阪大会（グランキューブ大阪） 入浴サービス	3月	ごくろうさん会（館内実施） 年度末半日休所（3/31）

<毎月>

- ・ 月1～2回近隣公園清掃ボランティア
- ・ 25日工賃支給日（休、祝日の時は前倒しで支給）
- ・ 第1水曜日（職員会議のため）午前日課（体操教室）
- ・ 第1水曜OT訪問による健康体操・レクリエーション（予定）
- ・ 月1回の医師、看護師による訪問相談、バイタルチェック
- ・ 毎週金曜日15：00～喫茶
- ・ 第4月曜日 PM保護者会
- ・ 隔週金曜日区役所製菓販売

<不定期>

- ・ 土曜開所（月1～2回程度）時の調理実習・余暇活動